

平成16年

脳卒中登録事業
実績報告書

平成17年3月

鳥取県健康対策協議会
脳卒中登録対策専門委員会

はじめに

鳥取県脳卒中登録対策専門委員会

委員長 能勢隆之

鳥取県の脳卒中登録は全国にさきがけ、脳卒中実態調査の結果を踏まえ、昭和60年より鳥取県健康対策協議会の事業として開始され、平成16年で20年目を経過しました。この間、診断票の充実、退院票の導入、経過報告票の導入、発症情報の入力業務の保健所への移管、退院前の院内説明会の実施、退院後の経過報告票の導入など、登録事業のシステムは着実に前進してきております。また、診断票、退院票の届け出数は増加傾向にあり、県内の脳卒中発症状況、その特徴、治療状況などを明らかにするとともに、発症者に対する保健・福祉サービスの提供がよりきめ細かく行われるようになりました。このように鳥取県の脳卒中登録情報システムが充実してきたのは、ひとえに患者様、県医師会、鳥取県内医療機関、鳥取県、保健所、市町村等の協力の賜であり、関係者の皆様に深く感謝いたします。介護保険制度導入時には、登録事業の意義についても介護保険制度との重複など再検討する必要があるとの声も聞かれましたが、40歳未満の発症者のあることや、要介護状態ではない未認定の発症者についての再発予防やリハビリテーション等の対策が重要であること、及び脳卒中発症予防はもとより、介護予防事業の評価のためにも本事業が活用できる可能性もあるため、脳卒中登録事業の主旨に添った改善が必要であると感じております。

脳卒中登録事業が罹患率測定の枠を越え、発症予防、再発予防、リハビリテーション等の介護予防の概念を含め、これらの機能を果たすには、健康対策協議会のみでなく、幅広く関連との連携、合体が必要であり、発展的に見直しが必要と考えております。今後とも皆様の一層のご協力、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成17年3月

目 次

1	登録実績	1
1)	年別新規登録者数の推移	1
2)	診断票届出数の推移	3
3)	退院票届出状況	5
4)	経過報告票届け出数	6
2	登録情報からみた鳥取県の脳卒中の実態	7
1)	病型別発症数	7
2)	発症時の状況	9
(1)	発症時の意識障害の有無	9
(2)	発症時の運動麻痺の有無	11
(3)	発症時の言語障害の有無	13
(4)	発症時の既往歴	15
3)	退院時の状況	18
(1)	退院時の退院先	18
(2)	退院時の寝たきり度	19
(3)	退院時の痴呆及び尿失禁の有無	21
(4)	退院時の障害の有無	22
(5)	在院期間	23
4)	退院後の状況	24
(1)	サービス利用状況	24
5)	鳥取県脳卒中登録事業情報を用いた 発症の季節・曜日変動についてのマスコミ掲載等	25 - 29
3	付表	30 - 36

1 登録実績

1985年に鳥取県脳卒中登録事業が開始されて以来、2004年末までに19,896名の脳卒中患者が登録された（県外および住所不明175名除く）。この間に、退院後の訪問を速やかに行うことを目的とした退院票の新設（1992年）、データベースと保健所端末のオンライン化（1993年）、健康対策協議会から保健所への届け出先の移管（1998年）、経過報告票の入力（1998年）と着実に脳卒中登録システムは充実してきている。届け出られた情報は、寝たきりの防止や再発予防のための訪問指導、発症者の疫学像の解析に活用されている。

1) 年別新規登録者数の推移

新規登録者数は、年々増加傾向にあったが、2004年は新規登録者数が1,089件と、2年続けて前年より減少した。図1に新規登録者数の推移を示した。

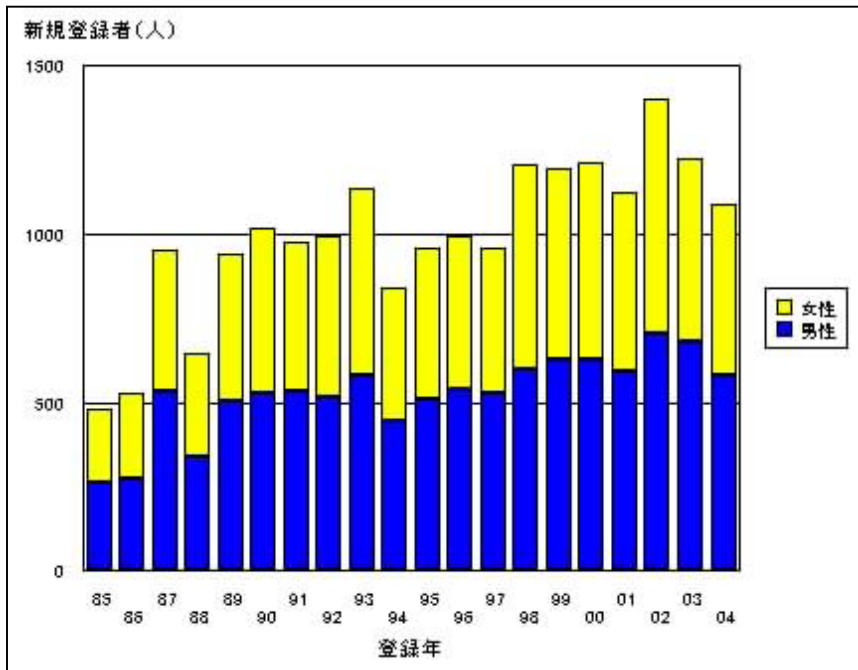


図1 年別新規登録者数の推移

図2に市部及び郡部における人口10万対の新規登録者数の推移を示した。新規登録者は、市部と比較して郡部に多かった。市部では前年に比べ倉吉市が増加、鳥取市、米子市と境港市が減少していた。新規登録数は倉吉市が最も多く人口10万対で約168件、次いで鳥取市が161件、境港市が160件であった。最も少なかったのは米子市で116件であった。郡部では、日野郡からの登録が人口10万対で477件、気高郡282件、八頭郡259件、東伯郡191件、西伯郡182件、岩美郡173件であった。

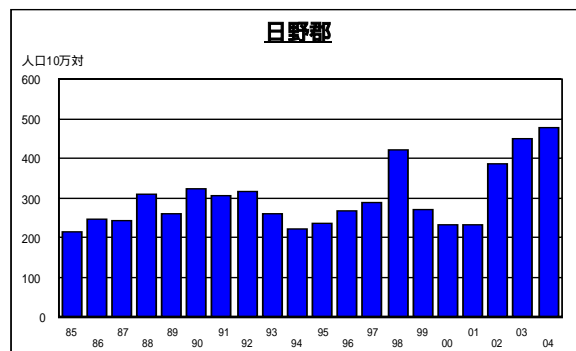
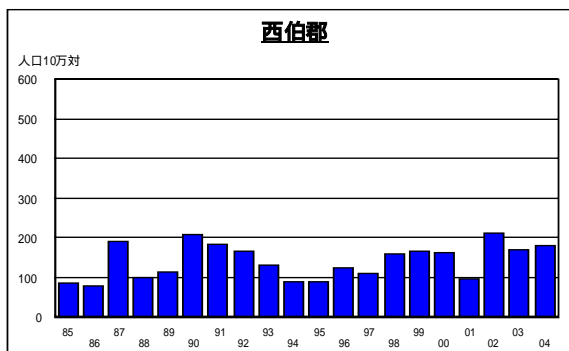
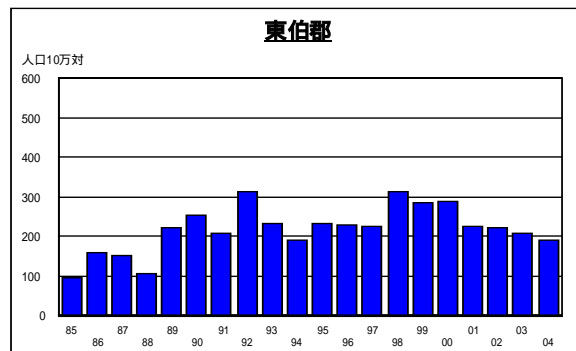
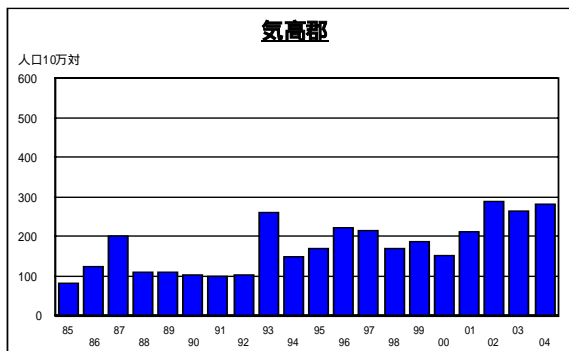
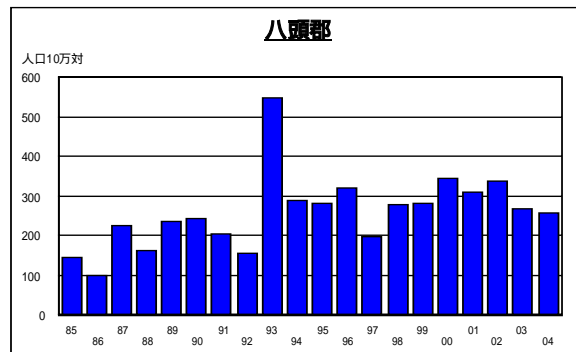
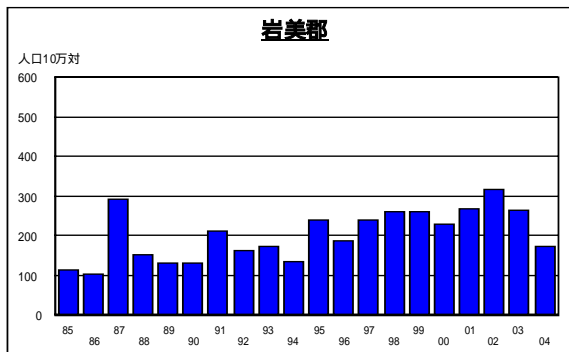
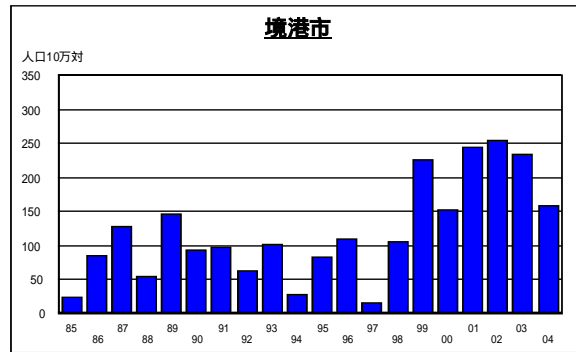
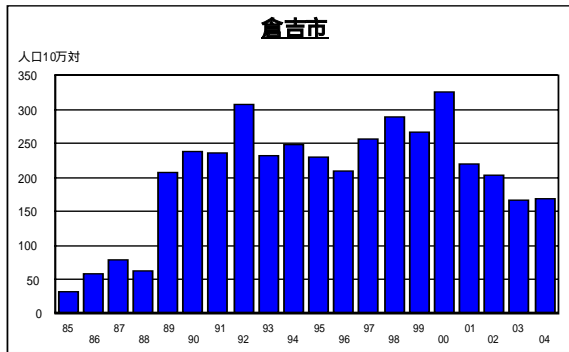
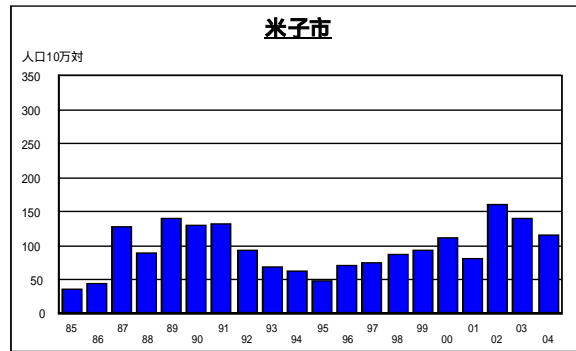
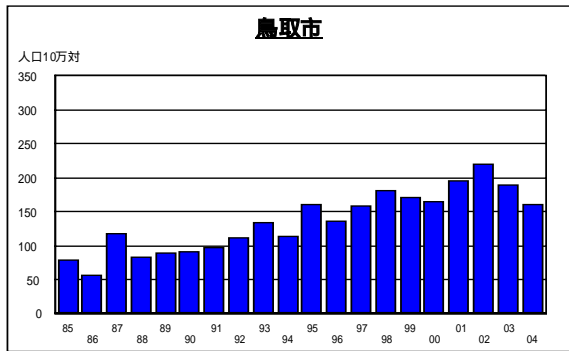


図2 市部・郡部別の新規登録者数（人口10万対）

2) 診断票届出数の推移

市部の人口10万対の診断票届出状況を図3に示した。2004年の人口10万対の届出数は鳥取市が172.4件と最も多く、次いで倉吉市172.0件、境港市170件、米子市126件であった。2003年と比較すると、倉吉市は増加、鳥取市、米子市、境港市は減少していた。ここ数年を見ると、米子市が少ない傾向が認められるが中部の減少傾向が大きい。

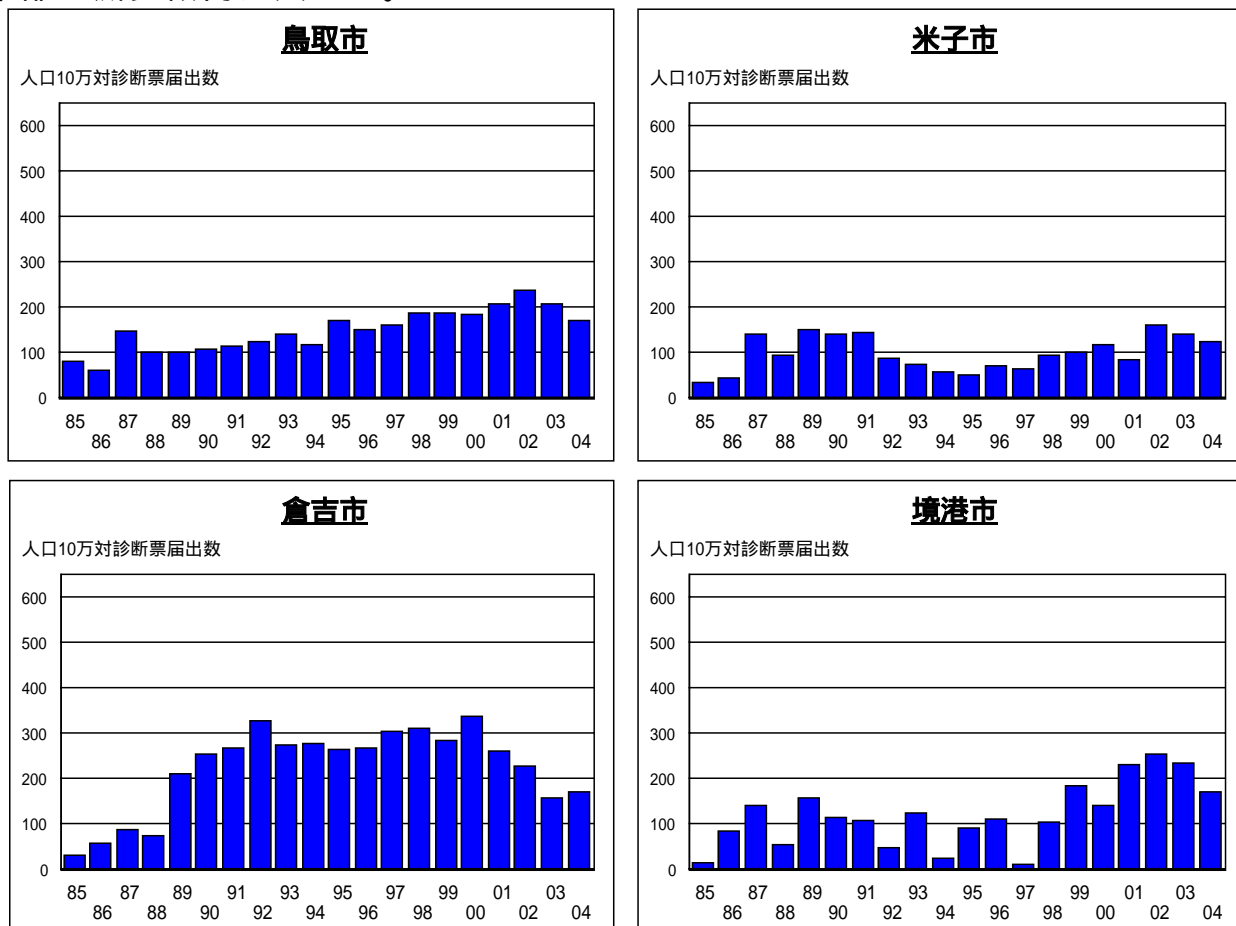


図3 市別の診断票届出数の推移（人口10万対）

図4に郡部の人口10万対の届出数を示した。日野郡が611件、気高郡が281件、八頭郡が271件、東伯郡が197件、西伯郡が178件、岩美郡が173件であった。日野郡が急増し、西伯郡が少ない傾向が認められた。また、東伯郡、岩美郡、八頭郡が減少傾向を示している。

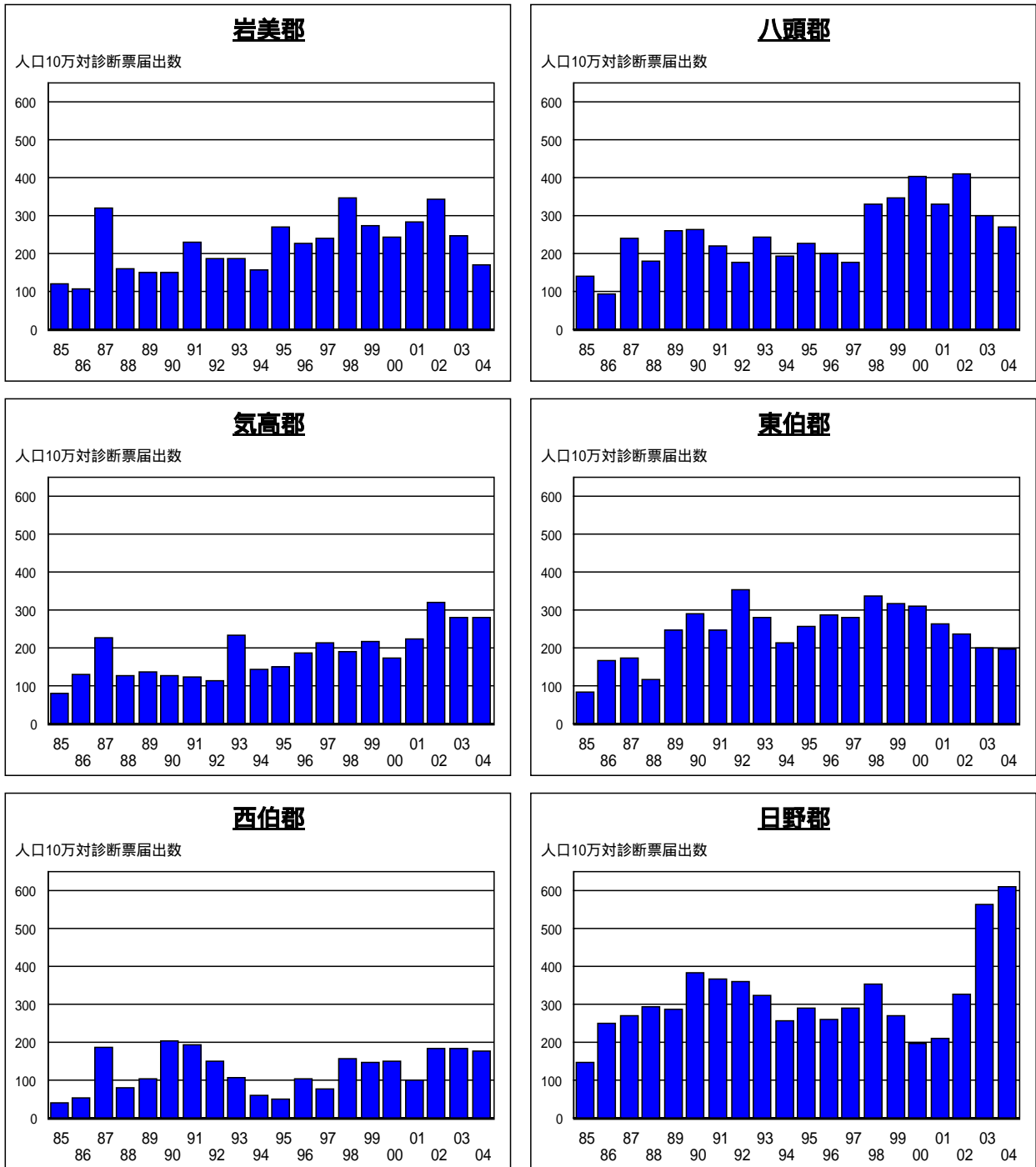


図4 郡別の診断票届出数の推移（人口10万対）

3) 退院票届出状況

図5に市郡別の退院票の届出状況の推移を示した。退院票は退院後の速やかな訪問及び適切な保健指導を実施することを目的として、1992年5月から開始されており、おおむね届け出数が増加していたが、2004年は前年より減少した。市部では米子市が少なかった。鳥取市、境港市は増加傾向にあったが、2003年、2004年は減少した。郡部では日野郡が人口10万対の届出数が462件、八頭郡、気高郡が200件以上であった。西部地域の届出数が少なかった。倉吉市、八頭郡、東伯郡は2004年に届出数が増加したが、他の郡は前年より減少した。

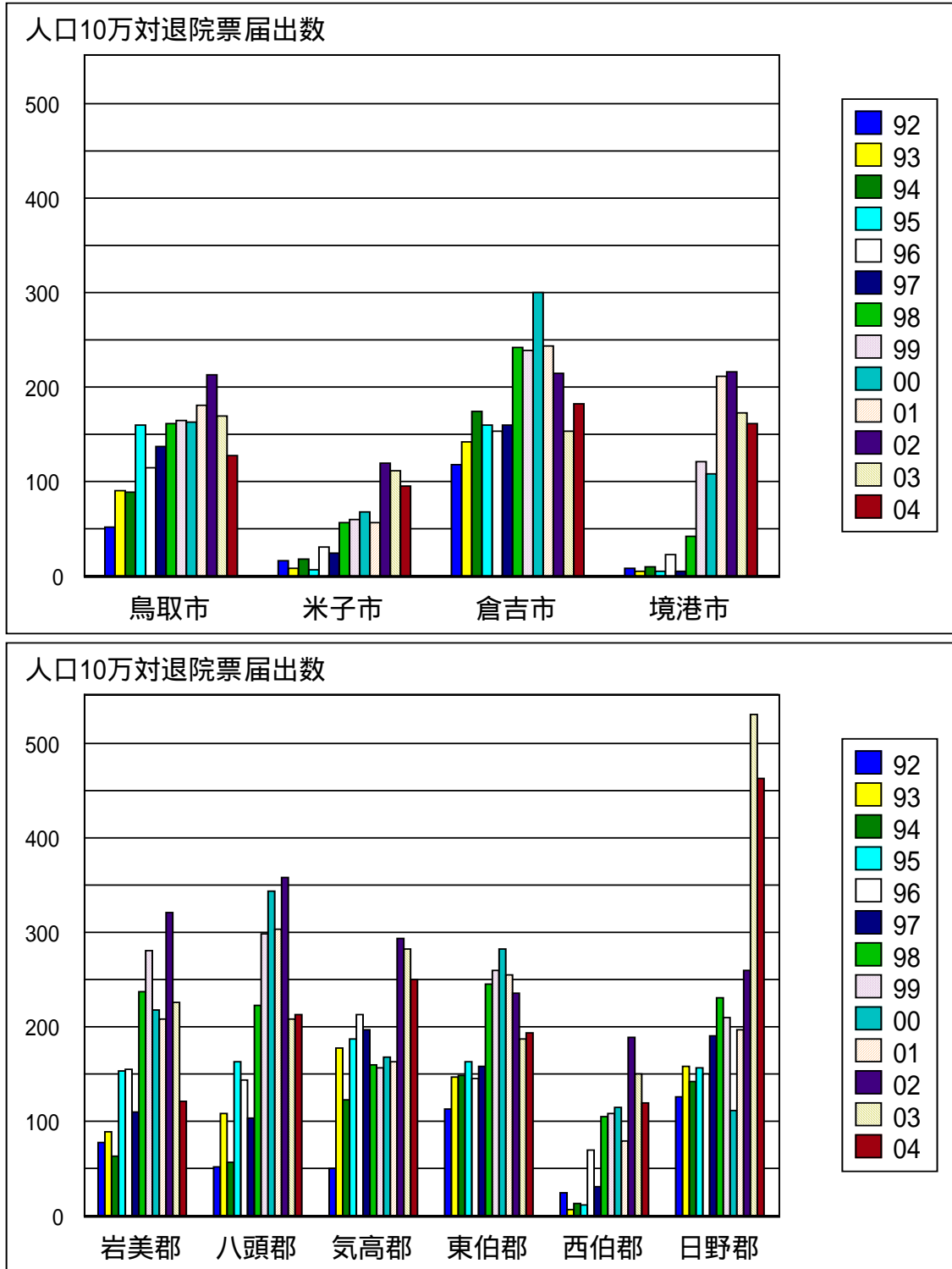


図5 退院票届出数の推移（人口10万対）

4) 経過報告票届出数

1998年から経過報告票が新設され、1998年には387件、1999年には548件、2000年は541件、2001年は398件、2002年は538件、2003年は444件、2004年には141件の届け出があった。2004年の届出数が急に減少した。表1に市郡別の届出数を示した。東部からの届け出が多かった。倉吉市の届出数が減少し、西部からは経過報告がほとんど出ていないのが問題である。

	鳥取市	米子市	倉吉市	境港市	岩美郡	八頭郡	気高郡	東伯郡	西伯郡	日野郡	合計
1998年	121	20	103	10	36	61	0	24	6	6	387
1999年	212	18	129	0	58	108	6	11	2	4	548
2000年	211	0	115	0	76	116	0	22	1	0	541
2001年	164	0	48	0	86	91	0	9	0	0	398
2002年	277	0	23	0	138	70	0	22	7	1	538
2003年	147	0	39	0	108	135	0	12	2	0	443
2004年	30	0	9	0	27	69	0	4	0	2	141
合計	1162	38	466	10	529	650	6	104	18	13	2996

表1 市郡別の届出数

1998年、1999年、2000年、2001年、2002年、2003年、2004年の経過報告票届け出数は、それぞれの年の退院票届け出数の41%、53%、51%、38%、41%、41%、15%に相当する。図6に各年の退院票届け出数に対する比を示した。2004年は岩美郡、八頭郡が高かった。鳥取市は退院票の届け出数が多いにもかかわらず比較的よく経過の把握がなされている。

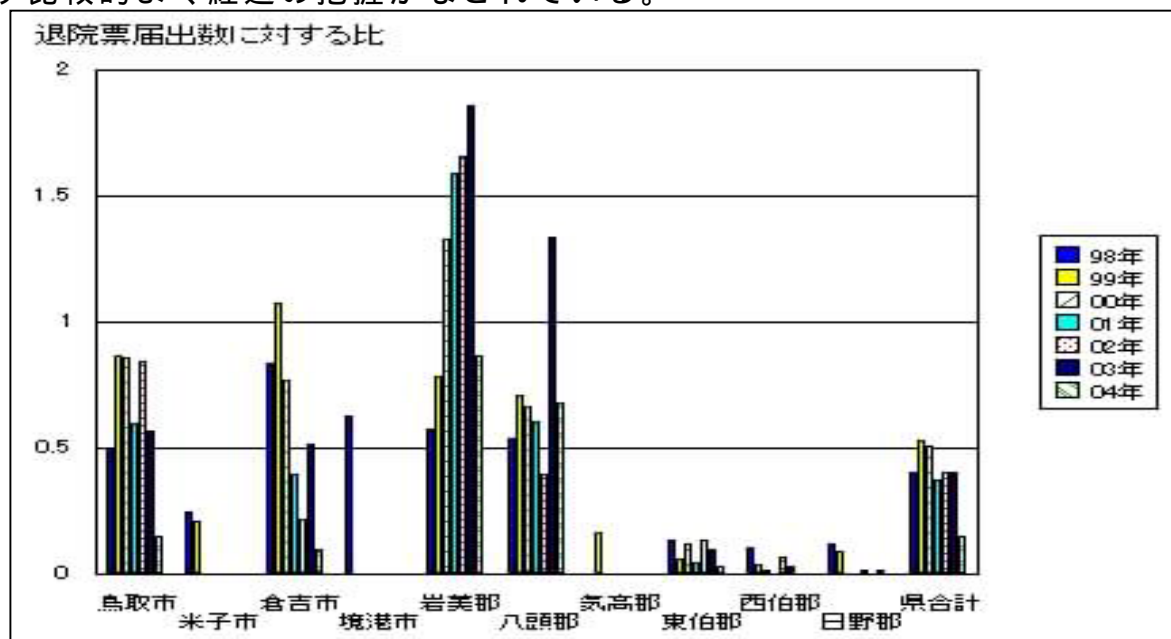


図6 市郡別経過報告票届出状況 (退院票に対する比: 経過報告票/退院票)

比が1を越えている地域があるのは、退院後複数回にわたり経過の把握・報告がなされている例があるためである。

表2 経過把握方法 (1998年~2004年)

	男性		女性		合計	
	報告数	(%)	報告数	(%)	報告数	(%)
家庭訪問	1240	71.8	896	70.7	2136	71.3
電話連絡	155	9.0	102	8.0	257	8.6
その他	294	17.0	241	19.0	535	17.9
不明	39	2.3	29	2.3	68	2.3
合計	1728	100.0	1268	100.0	2996	100.0

経過把握は約7割が家庭訪問、約1割が電話によって把握されたものである。

2 登録情報からみた鳥取県の脳卒中の実態

1) 病型別発症数(1985年～2004年受付)

図7に脳卒中発症者の診断票による病型分類を示した。居住地が鳥取県外および住所不明185件、病型不明125件及び30歳未満と発症年齢不明165件を除いた20,685件(総発症数)のうち、脳梗塞が13,859件と全体の67.0%を占めており、次いで脳出血が24.0%、くも膜下出血が6.5%であった。発症時の年齢階級別では70歳代が最も多く、全体の35.0%、次いで60歳代24.4%、80歳代22.3%であった。病型を性別に比較すると、男性に脳梗塞の割合が高く、女性に脳出血、くも膜下出血の割合が高かった。性別の年齢分布は、60歳代は男性で29.2%、女性で18.7%、70歳代がそれぞれ33.7%、36.6%、80歳代がそれぞれ15.9%、29.7%と女性の発症年齢が高齢であった。

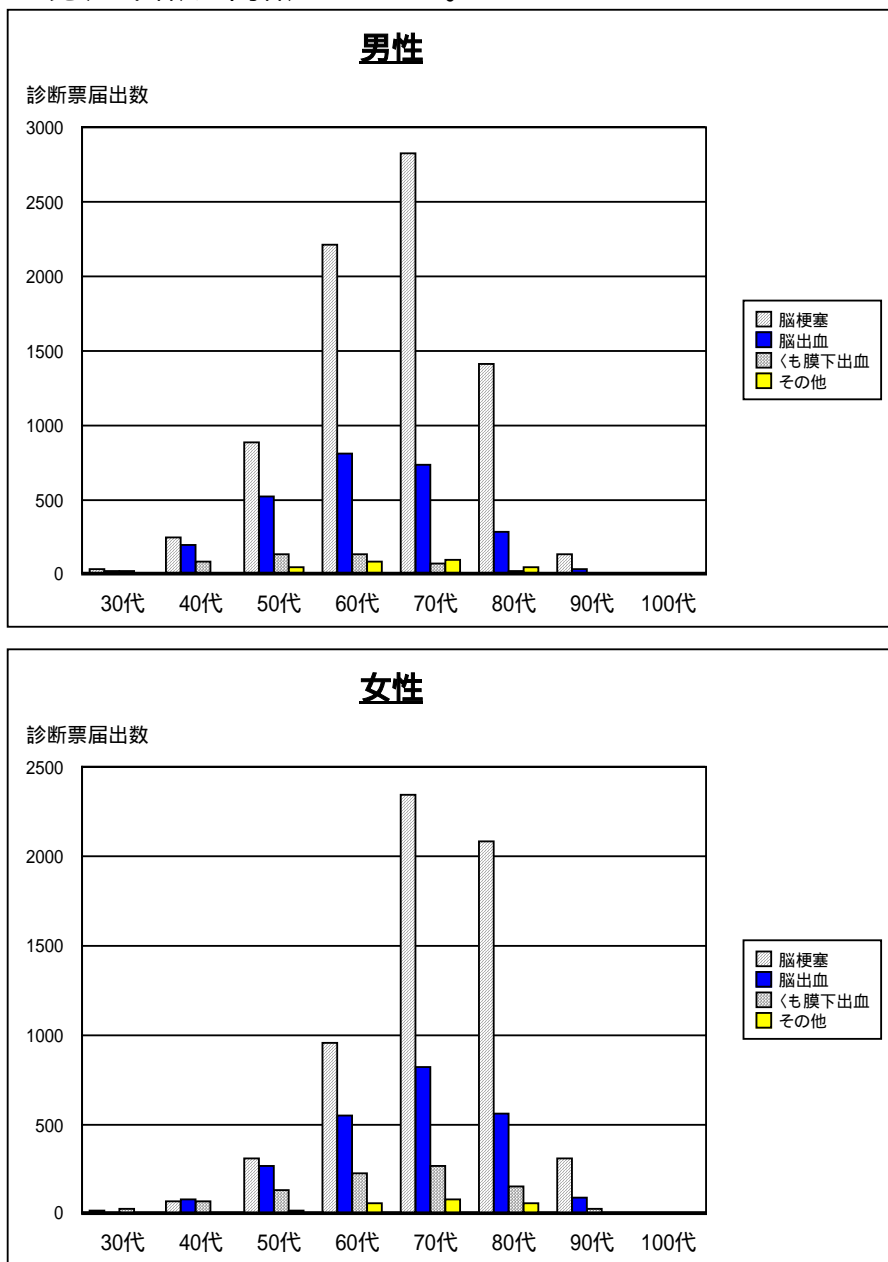


図7 病型別診断票届出数

図 8 に男女別の年齢階級別・病型分類の構成割合を示した。男女ともに年齢が高くなるにつれ脳梗塞の割合の増加、くも膜下出血の割合の減少が見られた。

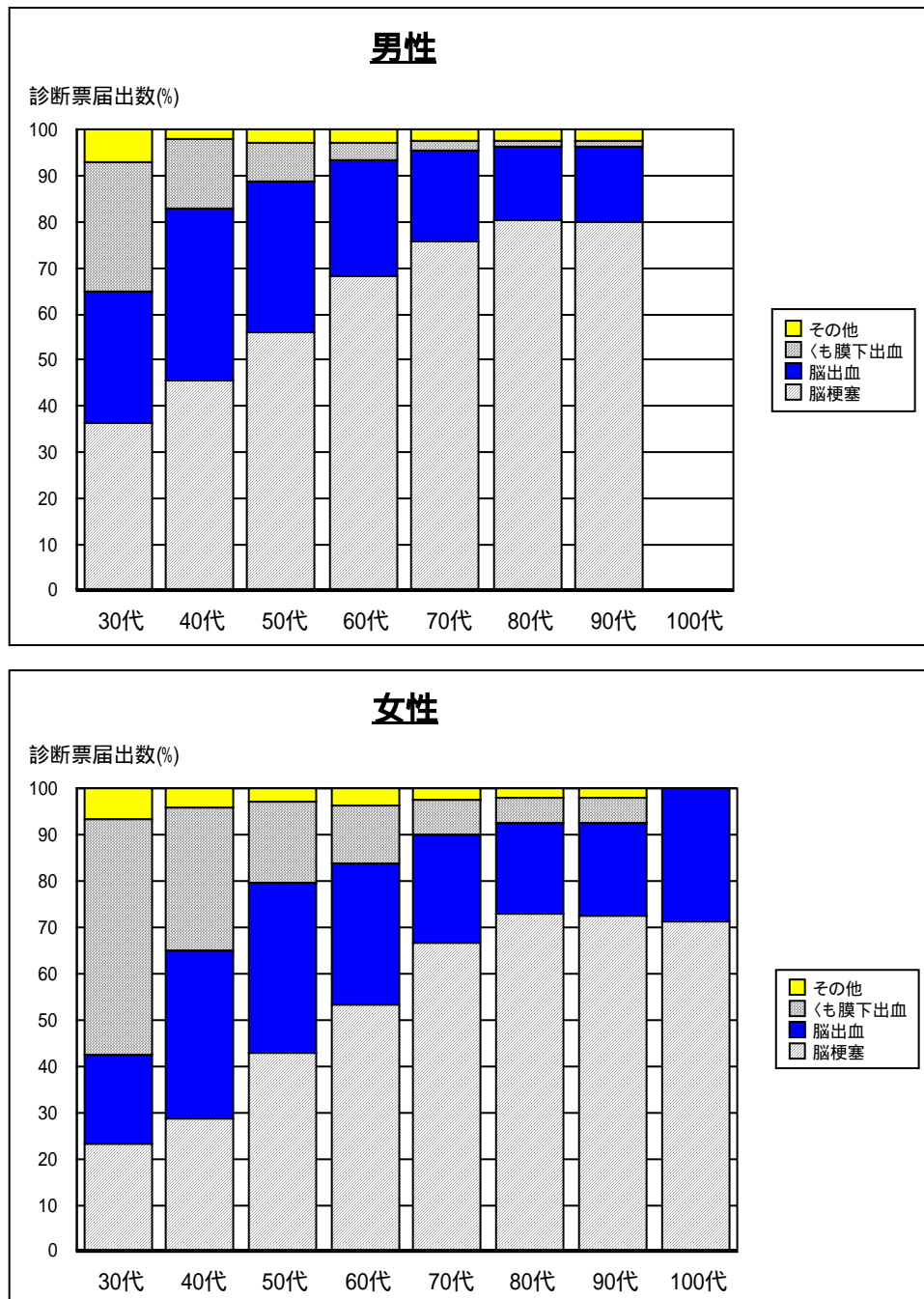


図 8 年齢階級別病型分類の構成割合

2) 発症時の状況

(1) 発症時の意識障害の有無（1985年～2004年受付）

発症時の意識障害の有無は、その後の生存予後に最も大きな影響を与えている（平成7年鳥取県脳卒中登録事業実績報告書）。発症者全体では35.9%に意識障害があった。病型別ではくも膜下出血の55.9%、脳出血患者の55.7%、脳梗塞の27.0%にみられた。脳梗塞、脳出血、くも膜下出血ともに意識障害を示した者の割合は女性にやや多い傾向が見られた（脳梗塞 男性24.3% 女性30.3%、脳出血 男性54.0% 女性57.5%、くも膜下出血 男性54.6% 女性56.6%）。

年齢階級別では、男女とも30歳代から50歳代までは意識障害がある者の割合が低下し、50歳代以降は年齢が高くなるに連れ増加するJ字型を示した。30歳代を除く全年齢階級で女性に意識障害を示す割合が高かった。女性の意識障害を示す者の割合は高齢になるにつれ男性との差が大きくなっている。

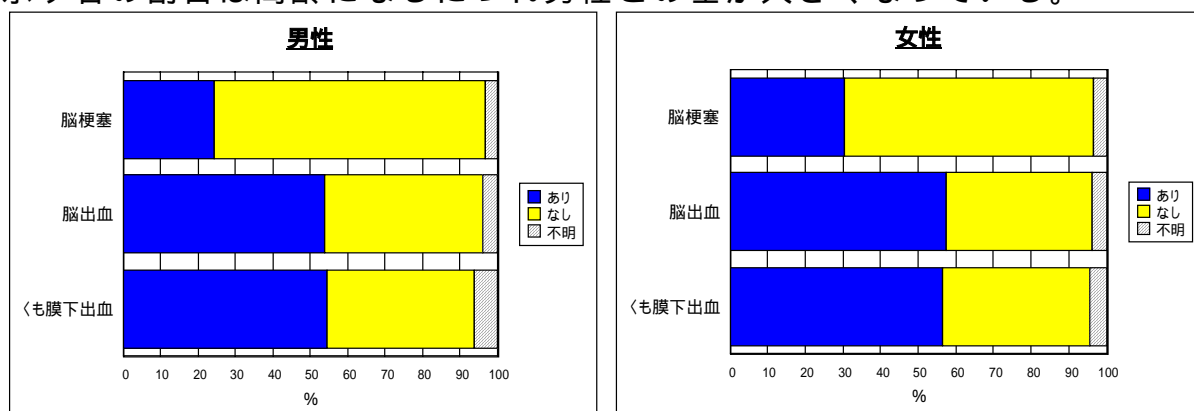


図9 病型別意識障害の有無

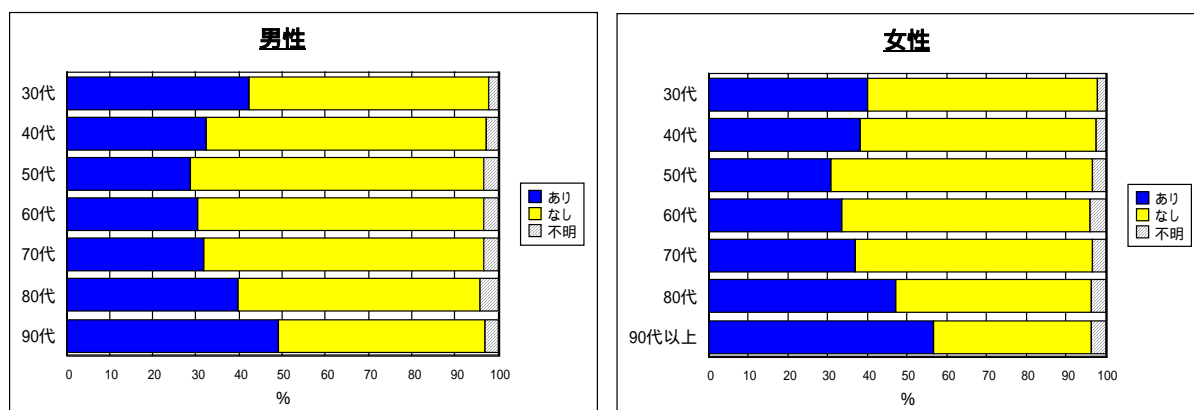


図10 年齢階級別意識障害の有無

性別・病型別・年齢階級別で見ると意識障害のある割合は異なっているが、各病型で男女ともに40歳代、50歳代でわずかに低下し、その後年齢とともに高くなる傾向があった。男性のくも膜下出血ではその傾向がはっきりしない。

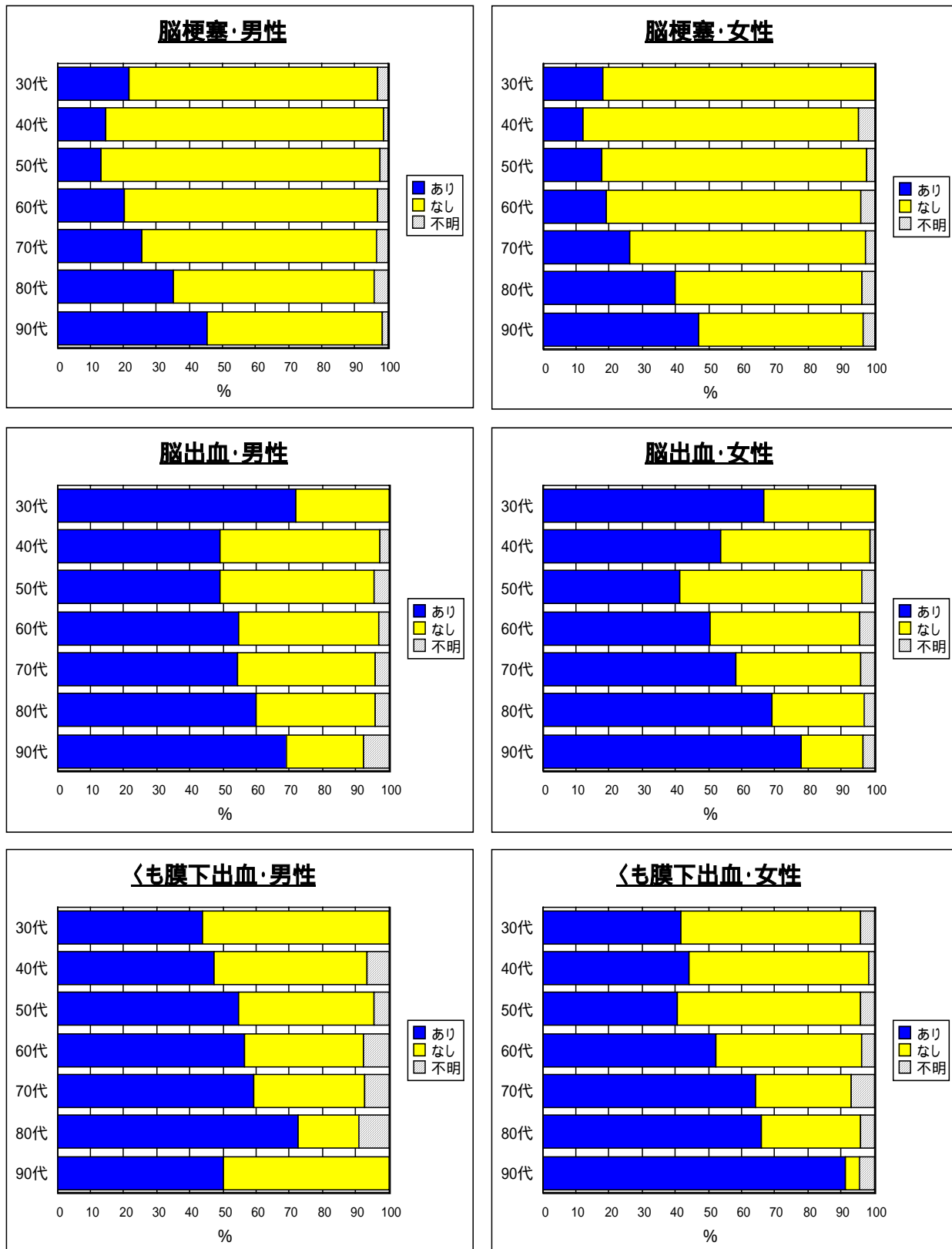


図11 年齢階級別意識障害の有無（病型別）

(2) 発症時の運動麻痺の有無（1985年～2004年受付）

脳梗塞、脳出血では発症者のそれぞれ80.0%、79.2%に何らかの運動麻痺が見られたが、くも膜下出血では25.7%と少なかった。脳梗塞、脳出血いずれも片麻痺の明らかな左右差は見られなかったが、くも膜下出血では女性の右片麻痺の割合がやや多い傾向があった。運動麻痺を示す割合は各病型ともに明らかな男女差は見られなかった。

年齢階級別では、発症時の年齢が高くなるにつれて運動麻痺を示す割合が徐々に多くなる傾向が認められた。

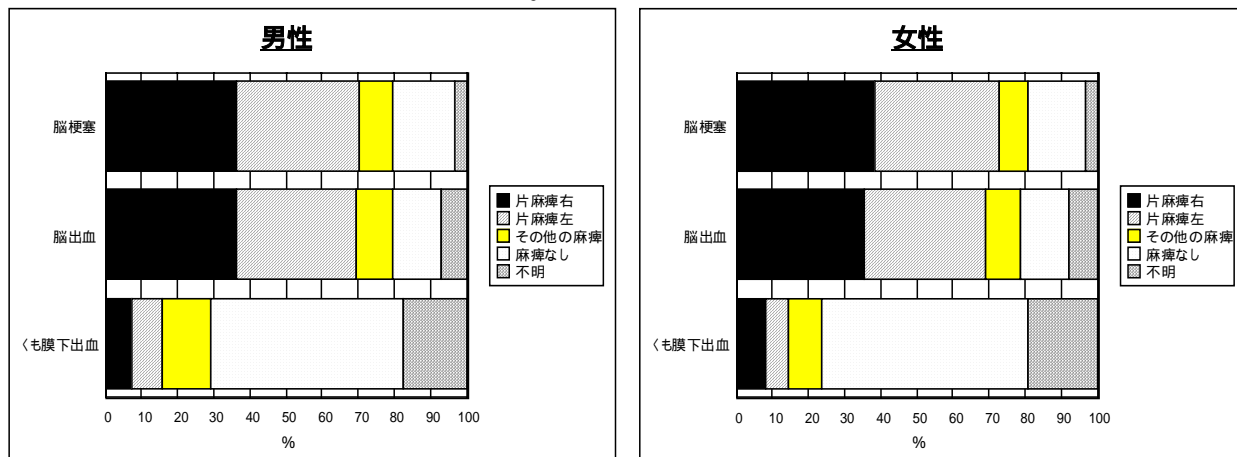


図12 病型別運動麻痺の有無

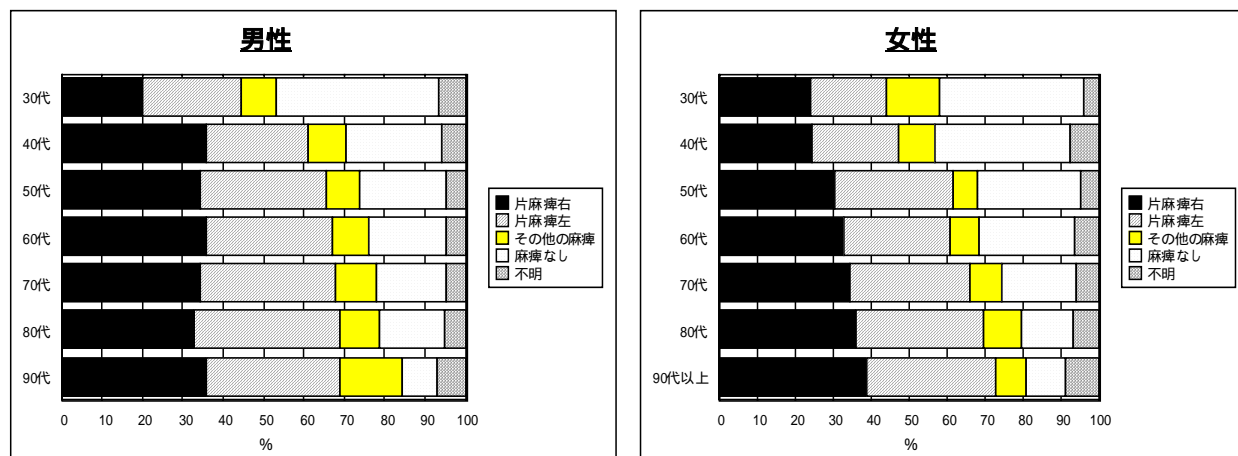


図13 年齢階級別運動麻痺の有無

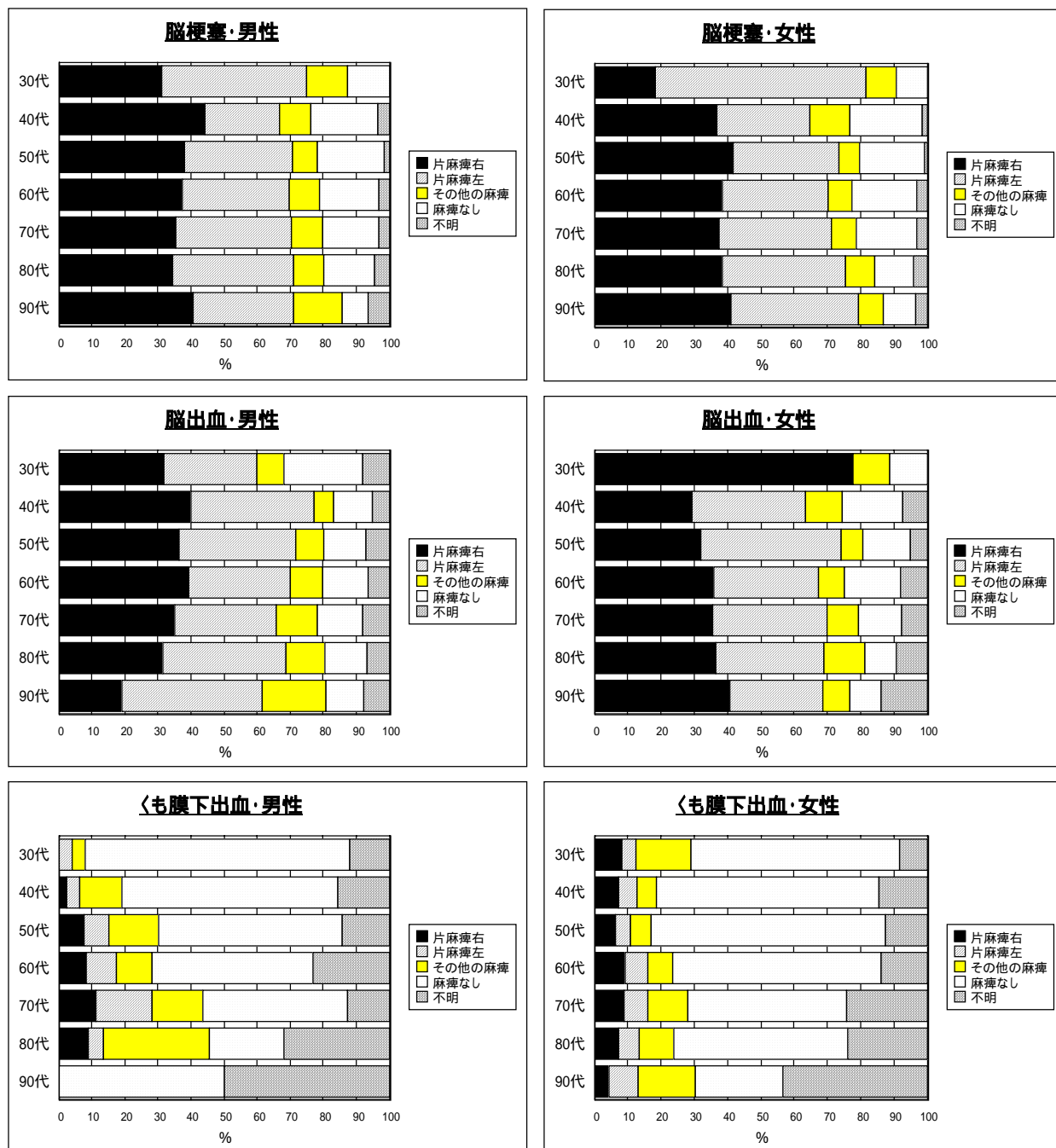


図14 年齢階級別運動麻痺の有無（病型別）

(3) 発症時の言語障害の有無（1985年～2004年受付）

脳梗塞の50.4%、脳出血の53.2%、くも膜下出血の19.9%に言語障害が見られた。

発症時の年齢階級別では、年齢が高いほど言語障害のある割合が高かった。言語障害のあるものの割合は男性が高い傾向にあった。

脳梗塞、脳出血ともに麻痺がある者に言語障害のある割合が高かった。

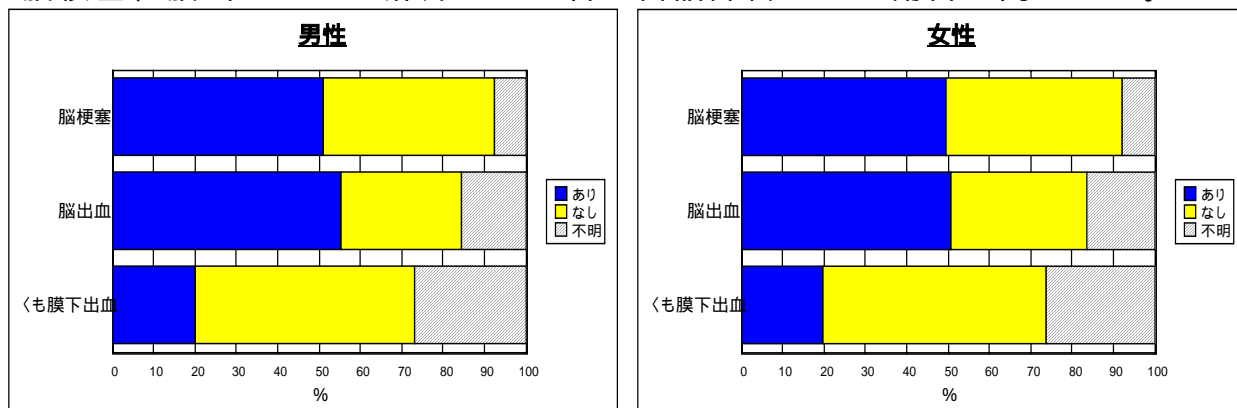


図15 病型別言語障害の有無

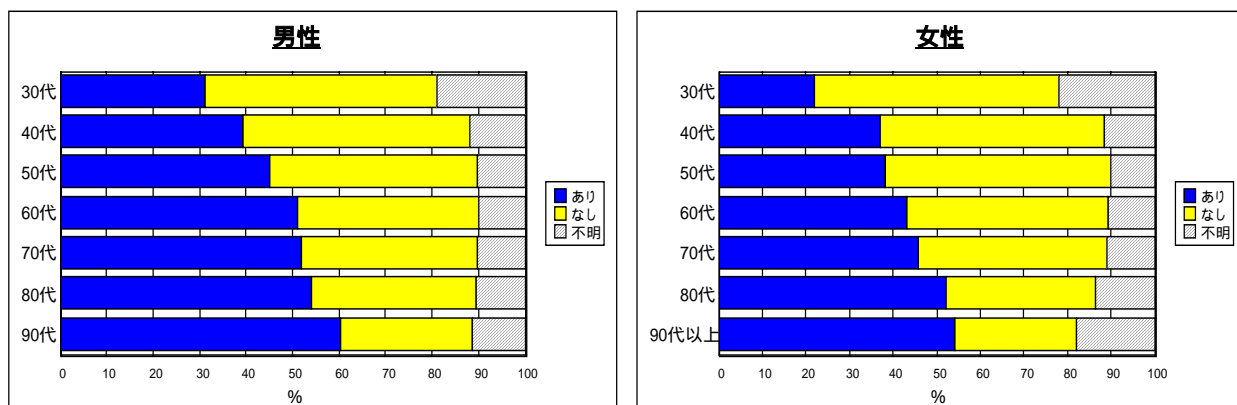


図16 発症時の年齢階級別言語障害の有無

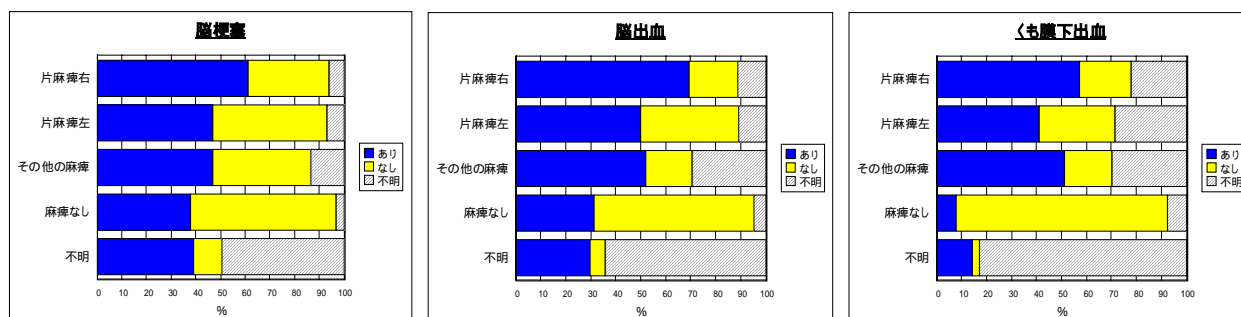


図17 運動麻痺の有無別言語障害の有無

各病型の男女とも年齢が高くなるとともに、言語障害を示す割合が増加する傾向があった。

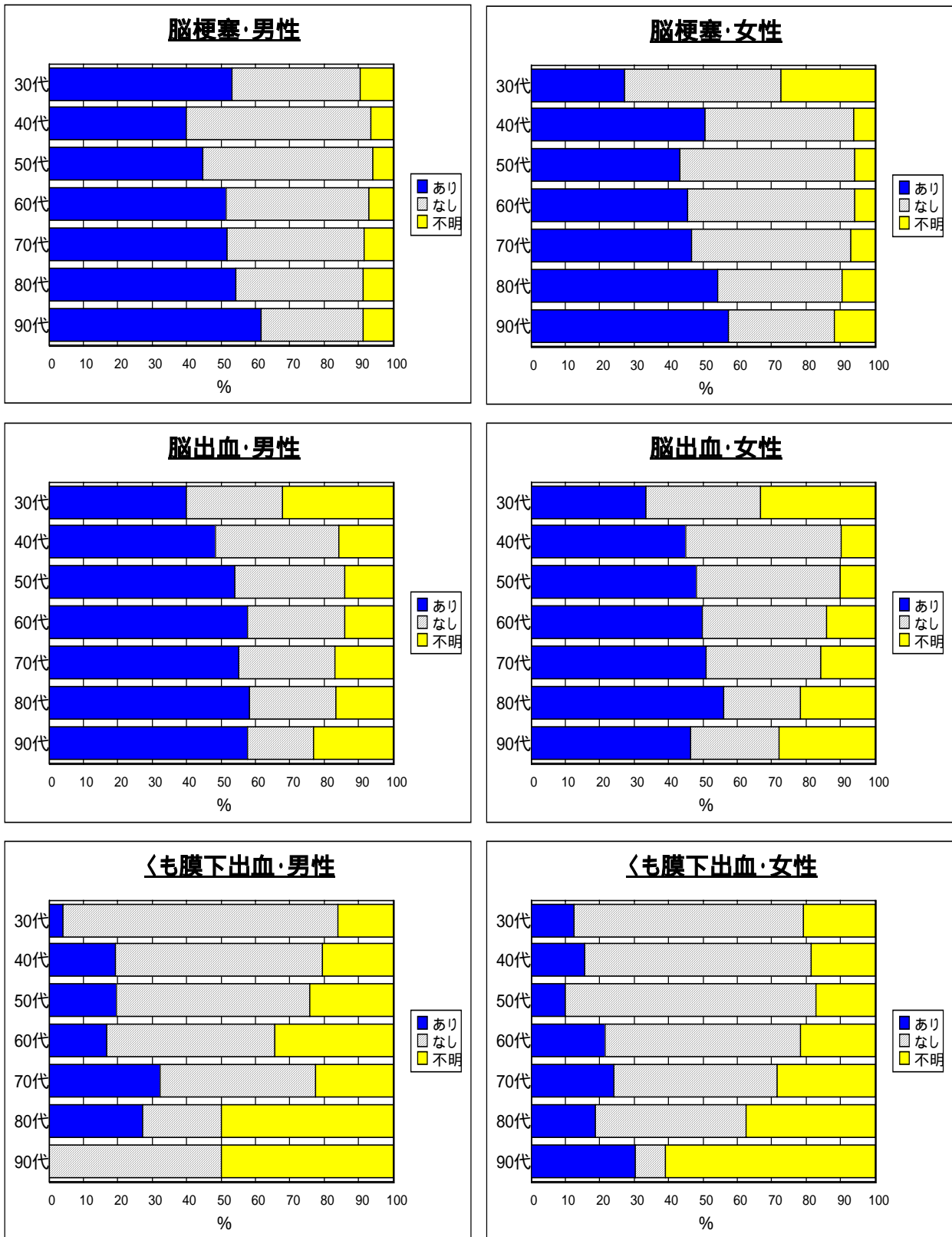


図18 年齢階級別言語障害の有無（各病型）

(4) 発症時の既往歴（1985年～2004年受付）

発症時年齢別に主要な既往症を図19に示した。なお、集計は1998年から診断票に既往症の欄が設けられたため、1998年から2004年までについて行った。該当する既往症がないために記入されていなかった可能性があるため、既往症なしと無記入の合計の結果も示した。

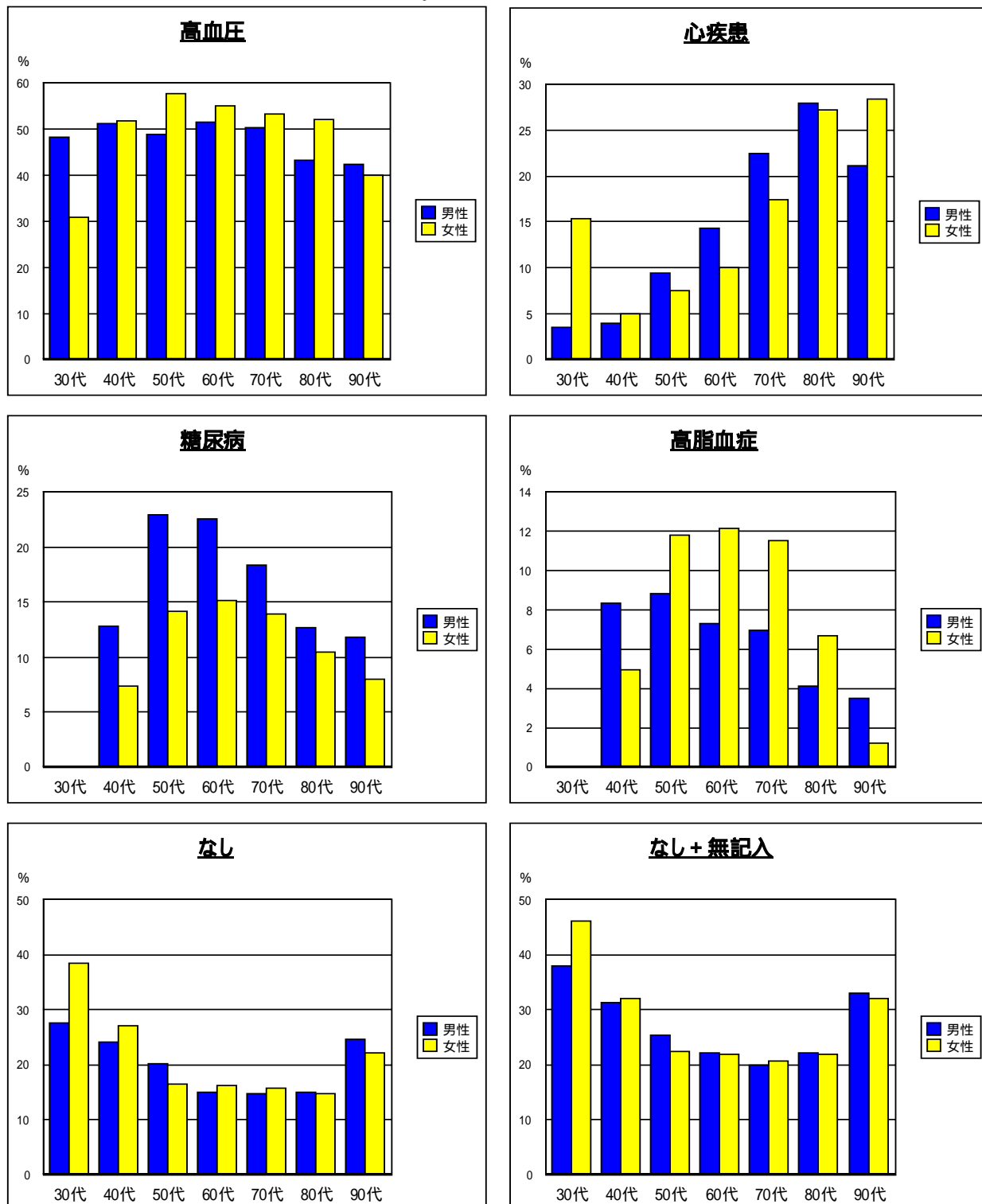


図19 診断票による発症時の既往症

(図ごとに縦軸のスケールが異なる。既往症は複数回答のため、なし・無記入と各疾患の合計は100%を越える。)

全年齢階級・男女計では高血圧が最も多く50.7%、次いで心疾患19.0%、糖尿病15.7%、高脂血症7.9%であった。

発症時の年齢が高くなるにつれて心疾患の既往歴を持つ者の割合が高くなるが、高齢になるにつれ心疾患の有病率は高くなるためと考えられる。一方、高血圧は逆に年齢が高くなるにつれやや減少する傾向があった。高血圧の有病率は年齢が高くなるにつれ増加すると考えられるので、若年者では脳卒中発症に及ぼす高血圧の役割が高齢者より大きいことがうかがわれた。糖尿病は男女とも、高脂血症は女性が50代、60代にピークがある山形を示していた。両疾患の一般人口における有病率と脳卒中発症に対する寄与についての検討が必要と思われる。

病型別では、男女とも脳梗塞に心疾患、糖尿病の既往を持つ者の割合が高く、高血圧が他の病型より低かった。脳出血では高血圧を持つ者の割合が高かった。くも膜下出血では心疾患、糖尿病、高脂血症のいずれも脳梗塞、脳出血よりも低かった。

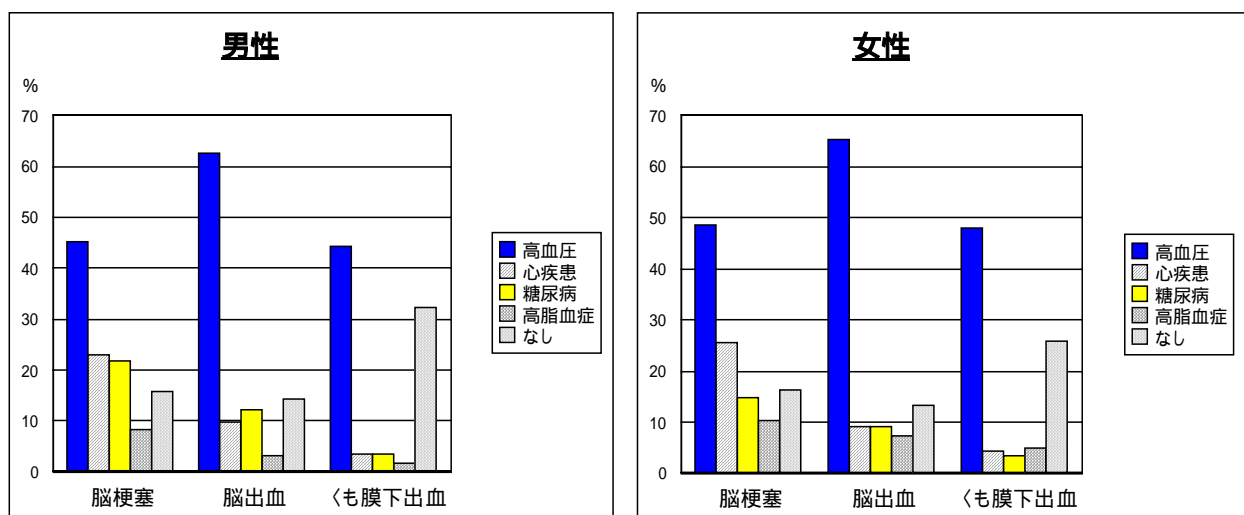


図20 性別・病型別各既往症を持つ者の割合

脳梗塞、脳出血について、既往歴の組み合わせのパターンを検討した。男女とも脳梗塞、脳出血ともに高血圧のみの割合が高いが、脳出血では脳梗塞よりも高かった。脳梗塞では心疾患のみ、糖尿病のみ、高血圧+心疾患の割合が脳出血と比較して高かった。これは、脳梗塞の発症年齢の高さが関連している可能性もある。

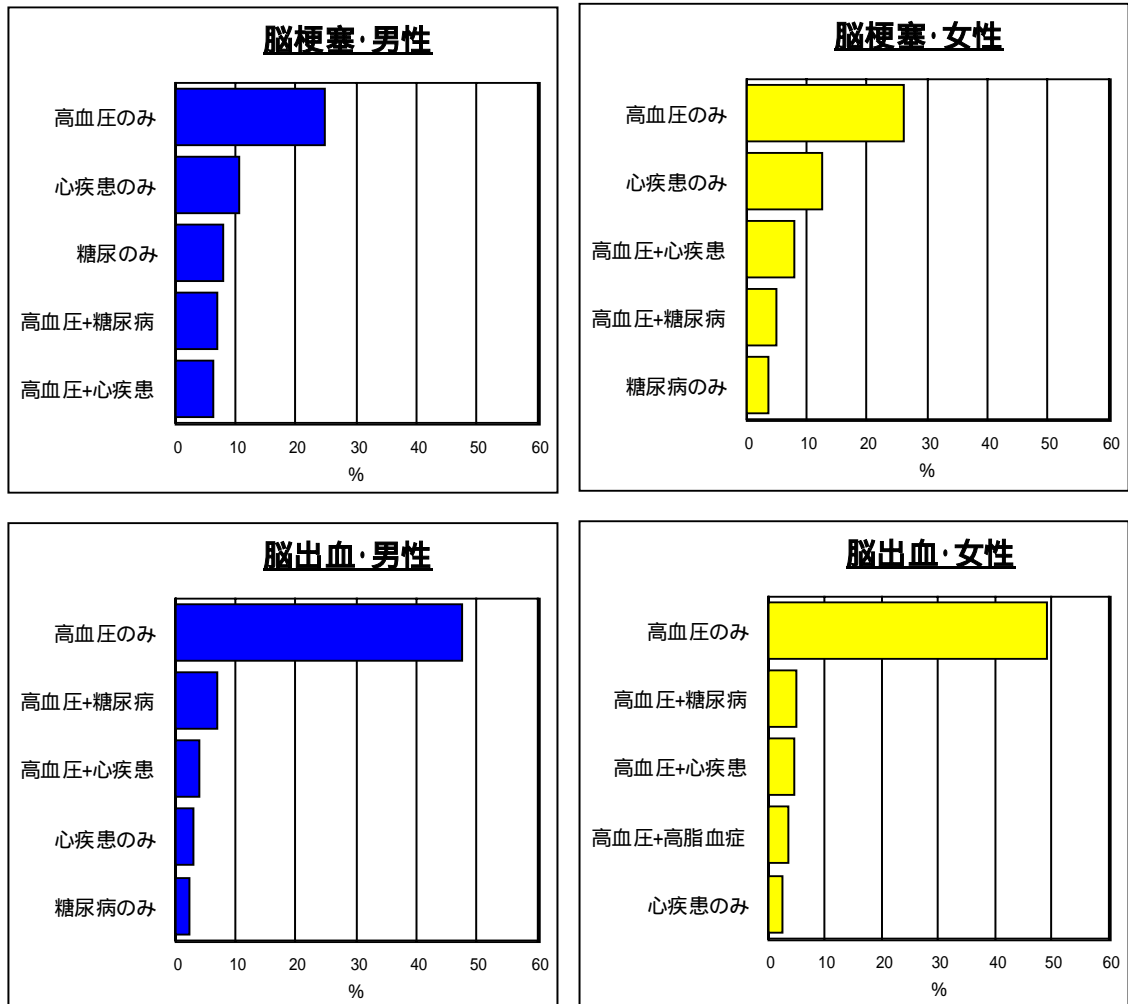


図21 性別・病型別各既往症を持つ者の割合

(既往歴の組み合わせの上位5つ)

3) 退院時の状況

(1) 退院時の退院先 (1992年～2004年受付)

男性は67.7%、女性は58.3%、男女計で63.5%が退院後自宅に帰っていた。年齢階級別では高齢になるにつれ男女とも自宅に帰る割合が減少していた。一方施設入所は男性6.3%、女性12.5%、全体で9.1%であった。年齢階級別では、年齢が上がるにつれ施設入所の割合は高くなっている。転医は男性19.0%、女性21.7%であった。

女性は60歳代以上で、男性より自宅に帰る割合が低く、60歳代から90歳代で施設入所又は転医が多かった。この理由として、高齢女性が男性より日常生活自立度が低い傾向にあること(図24)、家庭に介護する者がいないなどが考えられる。

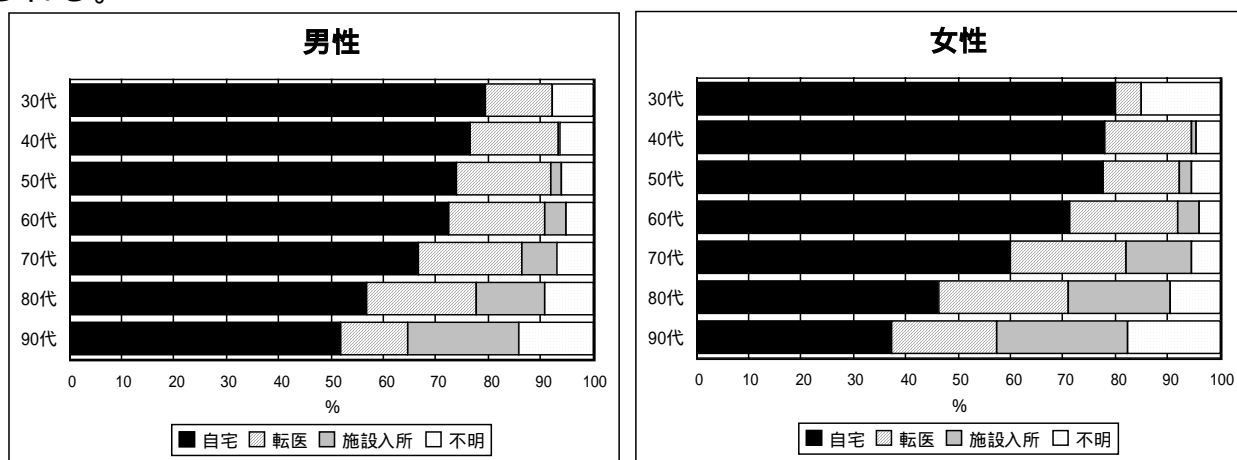


図22 退院票による年齢階級別退院先

病型別の退院先を図23に示した。退院後自宅に帰った者の割合は脳梗塞・男性で67.6%、女性で58.4%、脳出血・男性で48.5%、女性で43.5%、くも膜下出血・男性で51.3%、女性で47.9%であった。また、施設入所は脳梗塞男性で6.9%、女性で12.4%、脳出血・男性で8.3%、女性で15.9%、くも膜下出血・男性で2.0%、女性で7.9%であった。女性では退院後自宅に帰る割合がやや低かった。なお、退院票に病型が記載されるようになったのは1998年からであるため、図23は1998年～2004年の7年間の集計結果である。

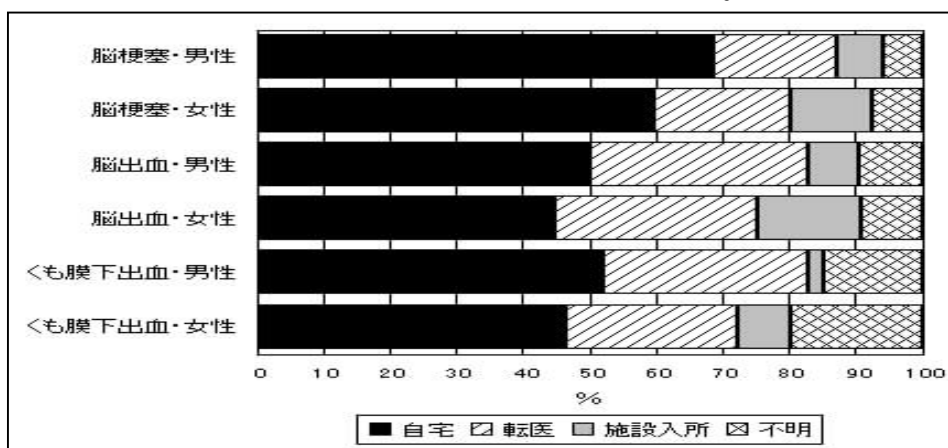


図23 病型別性別退院先 (1998年～2004年)

(2) 退院時の寝たきり度（1998年～2004年受付）^{脚註1)}

退院時の寝たきり度を図24に示した。全部自立は男性の31.8%、女性の23.0%、一部自立は同じく18.9%、15.6%、準寝たきりが15.8%、16.6%、寝たきり(1)が16.1%、18.7%、寝たきり(2)がそれぞれ11.6%、18.5%であった。女性は全部自立、一部自立の割合が低く、寝たきり(2)の割合が高かった。全部自立の割合は高齢になるにつれ減少していた。一方寝たきり(2)は、年齢とともに徐々に高くなっていった。

病型別では、全部自立は脳梗塞31.3%、くも膜下出血32.3%とほぼ同じ割合であった。脳出血は14.5%と低かった。寝たきり(1)と寝たきり(2)を合計すると、最も高いのは脳出血・女性の48.3%、ついで脳出血・男性の39.7%、脳梗塞の女性34.9%、くも膜下出血女性25.7%であった。

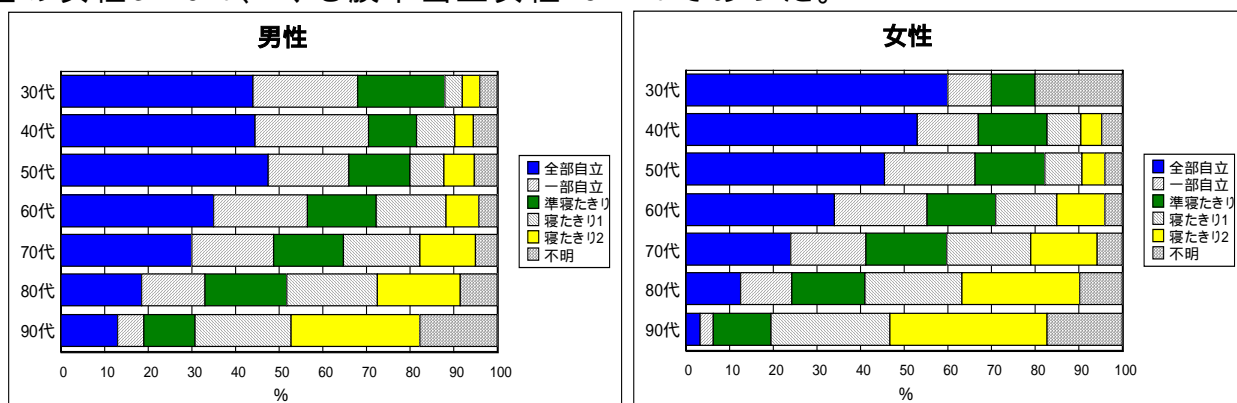


図24 性・年齢階級別退院時の寝たきり度（1998年～2004年）

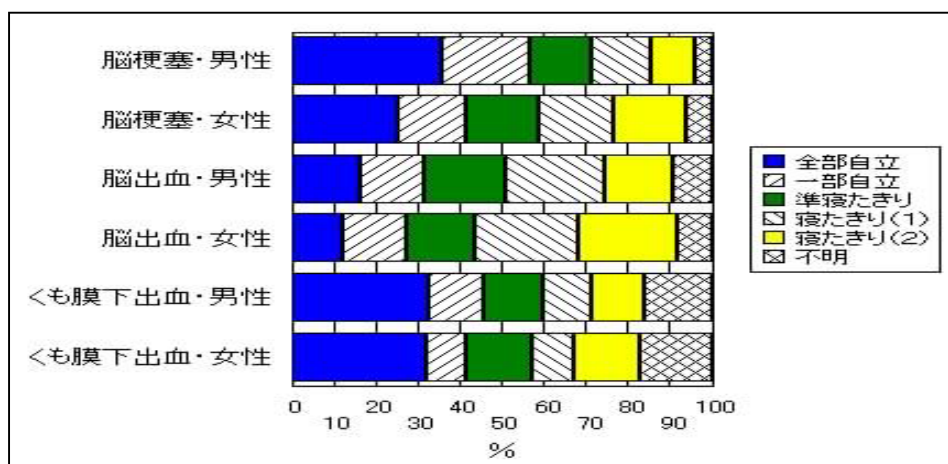


図25 病型別退院時の寝たきり度（1998年～2004年）

図26に寝たきり度別退院先を示した。全部自立では施設入所がきわめて少ないが、自立度が低下するに従い、自宅が減り転医、施設入所が増えている。男性では退院先が自宅の割合は、全部自立で90.6%、一部自立で82.8%、準寝たきりで64.9%、寝たきり(1)で33.8%、寝たきり(2)で17.7%と低くなる。同様に女性では、91.6%、81.7%、66.8%、31.0%、15.9%であった。施設入所は男性で全部自立の0.4%、一部自立の2.4%、準寝たきりの8.5%、寝たきり(1)の16.2%、寝たきり(2)の19.8%であった。女性では同じく、0.1%、4.0%、10.9%、25.2%、29.2%であった。寝たきり(1)と寝たきり(2)を合計すると、男性では27.1%が自宅、52.1%が転医、17.7%が施設入所、女性ではそれぞれ23.4%、46.8%、27.2%であった。やはり女性で施設入所の割合が高く、高齢男性では転医の割合が高かった。

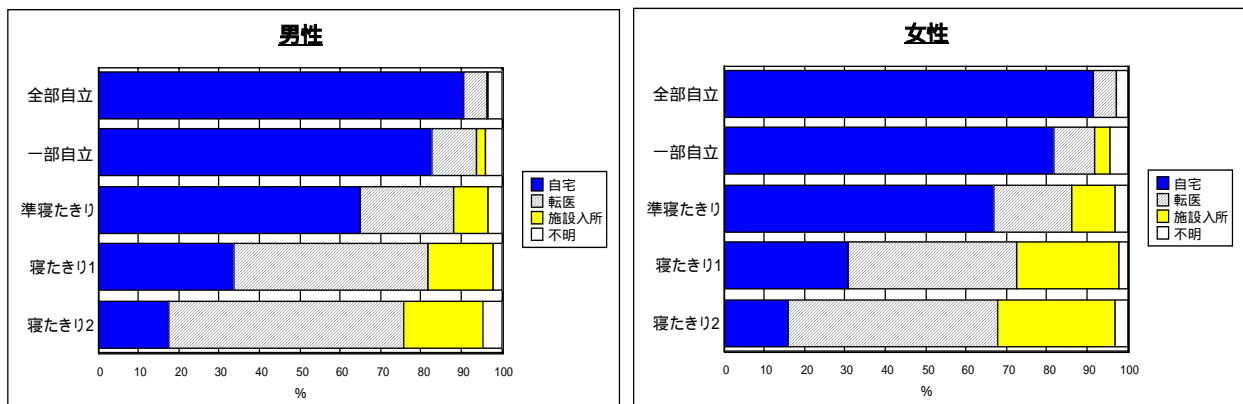


図26 寝たきり度別退院先 (1998年～2004年)

- 1) 1998年以降の退院票の寝たきり度分類 (1997年以前の分類の生活自立を全部自立と一部自立に区別した)
- 全部自立 : 障害は特に有さず、日常生活は自立している。
 - 一部自立 : 何らかの障害等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する:ランクJ
 - 準寝たきり : 屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない:ランクA
 - 寝たきり(1) : 屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドの上での生活が主体であるが座位を保つ:ランクB
 - 寝たきり(2) : 一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する:ランクC

(3) 退院時の痴呆及び尿失禁の有無（1992年～2004年受付）

男女とも50歳代から痴呆が出現し、年齢とともに痴呆がある割合が高かった。ほぼ全ての年齢階級で女性の方が痴呆のある割合が高かった。病型別でも女性に痴呆のある割合が高かった。

退院時に尿失禁がある割合も年齢とともに高かった。全体的に女性に尿失禁のある割合が高かった。また、図には示していないが、男女とも70歳以上のいずれの年代においても痴呆のない者に比較して痴呆のある者に尿失禁がある者の割合が数倍高かった。

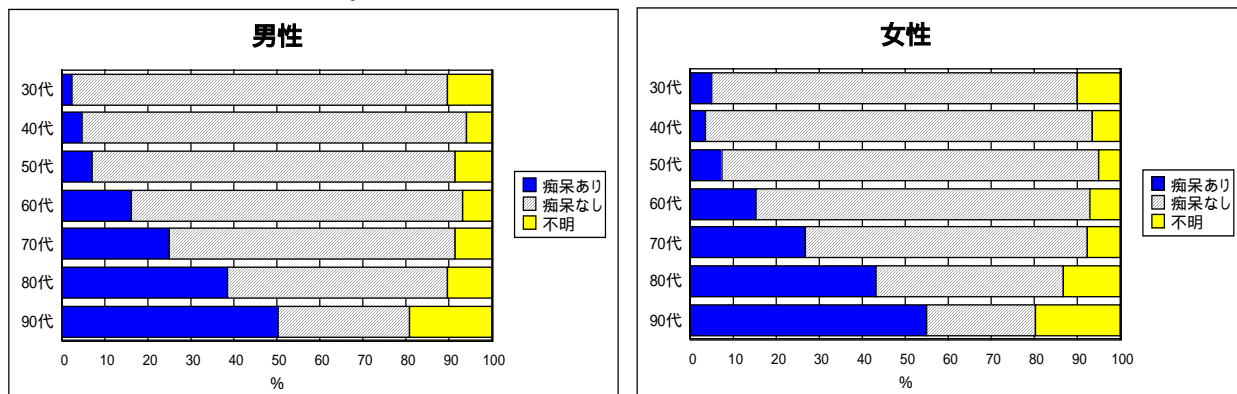


図27 退院時の痴呆の有無

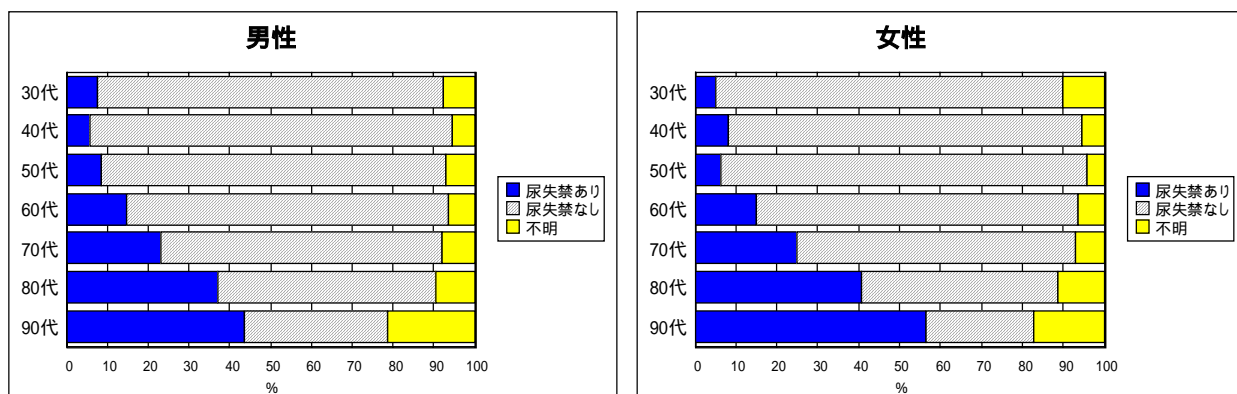


図28 退院時の尿失禁の有無

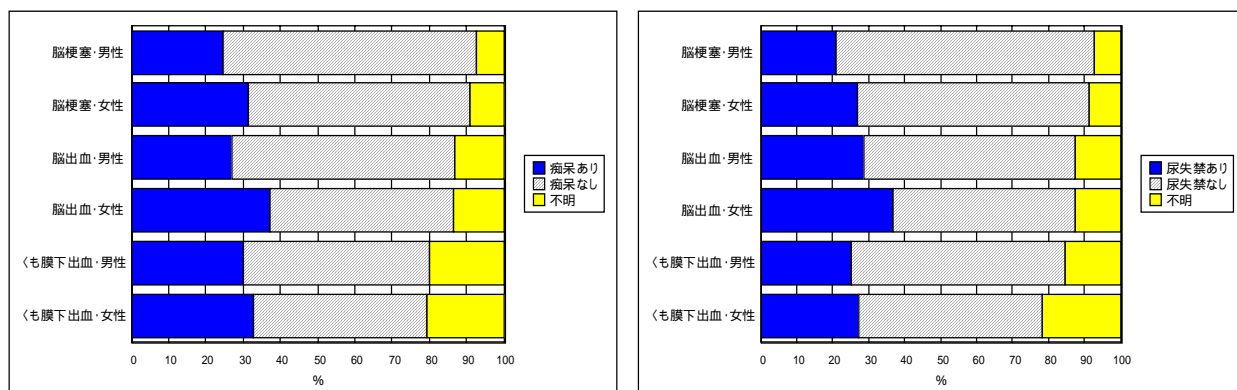


図29 病型別・性別退院時の痴呆及び尿失禁の有無

(4) 退院時の障害の有無（1992年～2004年受付）

退院時の障害としては運動障害が最も多く59.5%、ついで言語障害が33.9%、知覚障害が32.2%とほぼ同じ割合であった。運動障害、言語障害は年齢とともに高くなる傾向があった。性別では明らかな差は認められなかった。

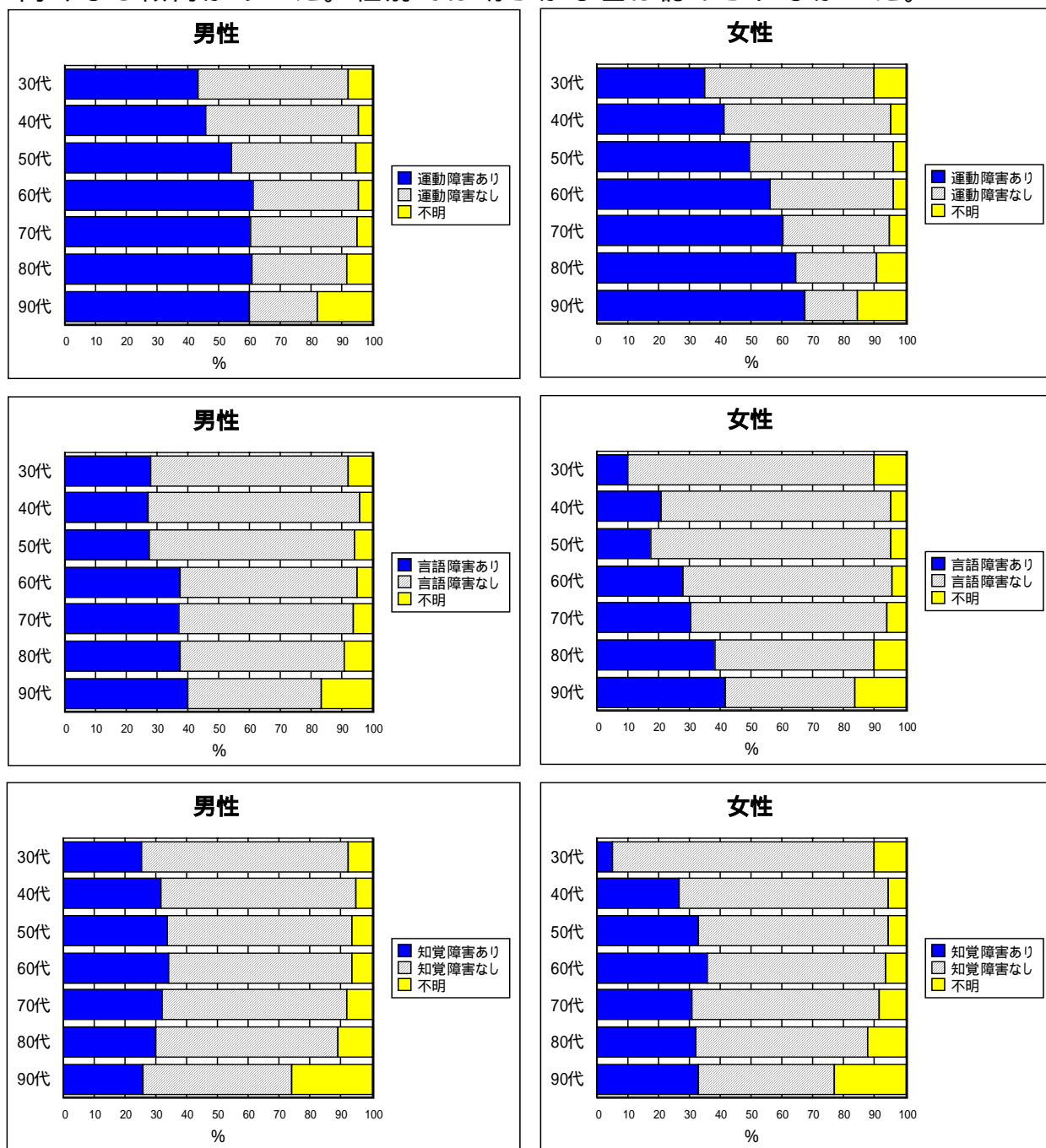


図30 退院時の運動障害・言語障害・知覚障害の有無

(5) 在院期間 (1992年～2004年受付) 脚注1)

退院票の入院年月日及び退院年月日から在院日数を求めた。図31に性別年齢階級別在院月数の構成割合を示した。男性の39.6%、女性の32.7%、男女計で36.5%が1カ月未満に退院していた。男性では1ヶ月未満の割合は年齢とともに低下し、1～2ヶ月、2～3ヶ月の占める割合が高くなる傾向があった。女性では、明らかな年齢との関連は認められなかった。脳梗塞は比較的在院期間が短い人の割合が高かった。

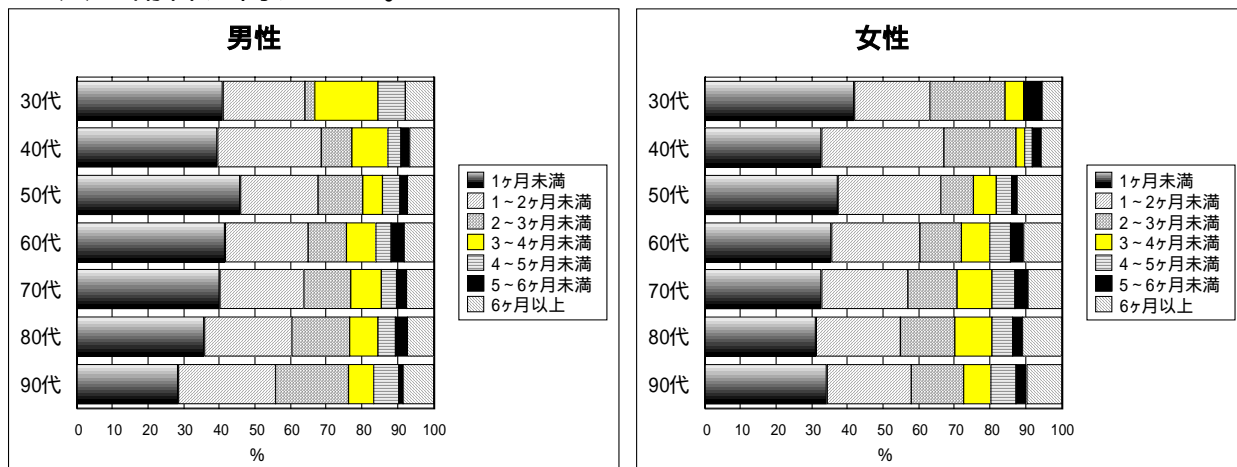


図31 年齢階級別在院月数 (%)

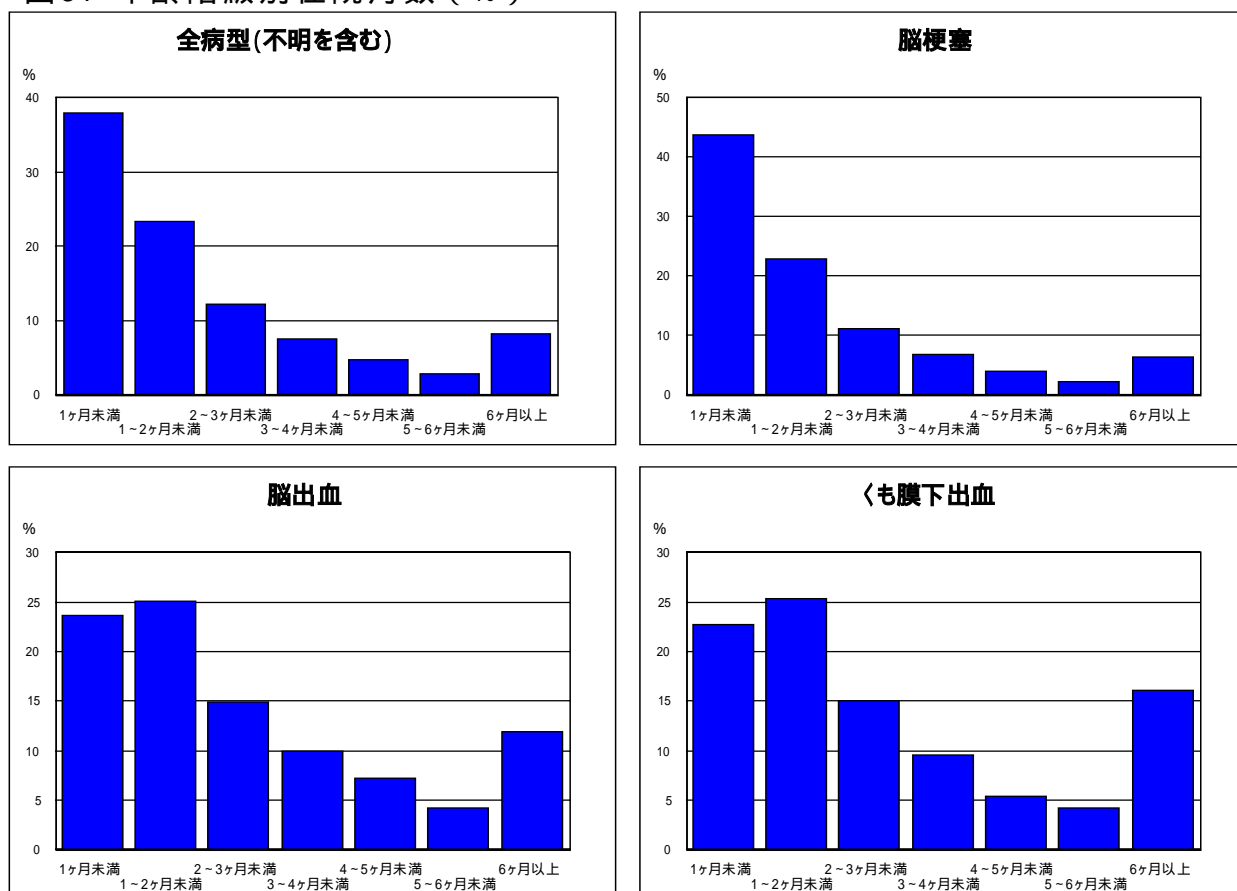


図32 病型別在院月数の分布 (1998年～2004年)

1) 30日を1カ月として在院日数を計算した。

4) 退院後の状況

(1) サービス利用状況(1998年～2004年受付)

図33に退院後のサービス利用状況を示した。「その他」を除くと男女ともディサービス又はディケアがそれぞれ11.6%、17.5%と最も利用割合が高かった。機能訓練以外は女性の利用割合が男性より高かった。男女で利用割合に差が認められたのは機能訓練、ホームヘルプサービス、訪問看護、日常生活用具給付、ディサービス・ケア、ショートステイ・ケアであった。特にホームヘルプサービスの利用は男性4.5%に対して女性は8.4%、入浴サービスは1.6%に対して、3.0%であった。

「その他」は男性13.2%と最も多く、女性で14.1%と2番目に多かったがその詳細は不明である。

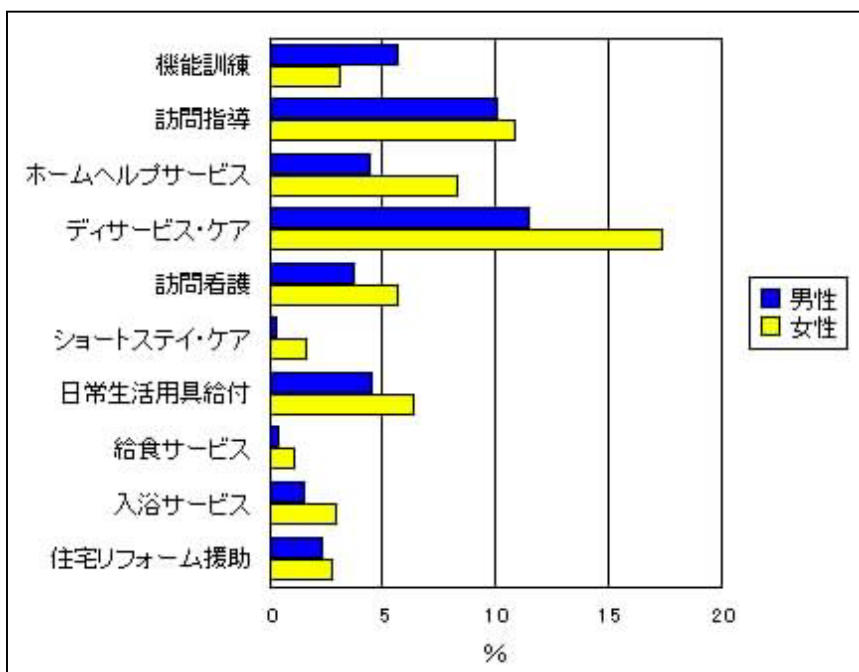


図33 退院後のサービス利用状況

「魔の月曜日」と言ってもいいのではないが、厚生労働省は「自殺が最も多いのが月曜日」という統計を発表した。実は、睡梦中や心筋梗塞も、曜日別では月曜日が最も起こりやすいという研究があるのだ。月曜日は「憂うつな日」だけでなく、心と体が衰化する「危険日」なのだ。

自殺だけじゃない、新たな週へのストレス 脳卒中も月曜日が危ない



まずは左側のグラフを見てほしい。これを見れば一目瞭然、睡梦中の発症を曜日別に分けると、月曜日が突出するのだ。

このデータは鳥取県の医療機関が報告したもので、85年から01年までの7年間に、初めて睡梦中を起こした40歳以上の患者1万2529人を分析した結果だ。昨年6月、カナダのバンクーバーで開催された世界臨床会議でも発表された。

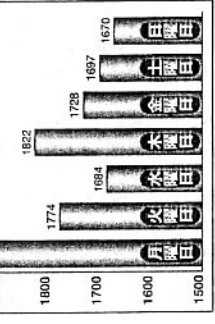
データ解析を担当した鳥取大学医学部の尾崎米厚助教授（環境予防医学）によれば、この内訳を年齢別に分け、60歳以上と60歳未満とで比べると、60歳未満の発症のほうが、さらに日曜日と月曜日の差が開くという。こうした点から、「まだ仮説の段階ですが、睡梦中は午前中の発症が多い」と言われていることもあって、月曜日に仕事に行くのが嫌だという心理的要素が働いているのかもしれないと考えられます。一回助

教授は、「アルマンデー」と呼ばれてきたわけだが、こうした結果を見ると、アルデー済む話ではない。

前出の鳥取大学医学部の尾崎助教授は、「今後は、祝日や正月休みの次の日などを含めて一休み明け」という視点で調べてみたいと考えています」と話す。

一方、厚生労働省が1月末に発表したのは、03年に自殺した3万2109人についての日別数。いわば「心」の危険日を調べた。

月曜日の平均が男性80・7人（1日当たりの平均が男



はかにも同様なデータが実はある。

①91年から98年までの富山県の睡梦中患者1万人余りを調べた結果、月曜日の発症が最も多かった。

②秋田県立脳血管研究センターが、76年から77年間に睡梦中で発症して24時間以内に死亡した1755人を調べたところ、55歳未満の動脈硬化では、月曜日の発症が突出して多かった。

――などだ。

また過酷な社会に戻るストレス

横浜市各区の男性50は、「会社で意識をしていた午後1時ごろでした」とその「日」を語り返す。

「暑い日で、クーラーが、がんがきいていました。急に寝落ちして、うまく話せなくなりました。歯の治療で麻酔をかけられたような感じ。会社の車で病院に連れていってもらい、血圧を測ると上は200になっていました。そこ

性別：1人、女性27・3人。同23・9人でも、もっとも自殺者が多い曜日であるという結果が出た。一方、もっとも少ないのが土曜日で、男性10・5人、女性21・2人。やはり一週間の始まりという仕事へのストレスが影響を及ぼしていると考えるのが普通だろう。ちなみに3万2109人という自殺者数は過去最高で、自殺死亡率は世界でも上位だ。

「一体」に話さなければ、年間約1万8千人死んでいる睡梦中だけでは、約4万6千人の急性心筋梗塞も、月曜日にも多く起きているという研究結果がある。

心筋梗塞の発症が月曜日に多いという研究結果は、海外ではドイツやスコットランドなどにある。日本では、睡梦中はと患者が多くはないため、心筋梗塞の調査はあまり考慮されていない。ただ、広島県の医師会が中心に実施している調査では、救急車で搬送された急性心筋梗塞の患者は、水曜日の発症が最も多いとい

う調査結果もある。

それにしても、睡梦中や心筋梗塞の発症が月曜日に多い理由は何なのか。専門家に聞いてみた。

自治医科大学の島田和幸教授（循環器内科）はこう説明する。

「いきなり発症するのではなく、血圧が高いとか血管が古びているとかの状況があり、そこに何かの引き金がかかると、月曜日だけが多いとすれば、休みの明けで、また過酷な社会の中に戻っていくという負担が影響しているとした方がよいだろう」

高血圧治療が専門の国際医療福祉大学附属熱海病院の森山久一助教授も、「月曜日が一魔の曜日だということは、多くの専門家も言っています。休みの翌日であることを考えれば、仕事へのストレスがいかほど大きいでしょう。ストレスが加わると、脈が速くなり、同時に血圧を上げます。それが、睡梦中や心筋梗塞の引き金になる可能性があります」

「ふだんどおりの日曜日でした。ただ、大きな仕事を二つ抱えて、うらぶらぶらと期が現れており、心理的にはかなり追い詰められていたと思います。月曜日も仕事が終わったら、飛行機で出張する予定でした」

この男性のケースで、仕事へのストレスと睡眠障害が、これは因果関係があるのかは定かではありません。だが、話しぶりから、仕事への強いストレスが月曜日に起こす引き金になったのでは、と感した。

休みが明けて、仕事を学校に行かなければならない憂うつな月曜日。古くから

「おかし」と言うので、翌日、別の病院に行くと、腫れと診断されました」

01年7月23日の月曜日のことだった。この男性はお酒は飲まず、前日も激しい運動をすることなく過ごしたという。

「ふだんどおりの日曜日でした。ただ、大きな仕事を二つ抱えて、うらぶらぶらと期が現れており、心理的にはかなり追い詰められていたと思います。月曜日も仕事が終わったら、飛行機で出張する予定でした」

この男性のケースで、仕事へのストレスと睡眠障害が、これは因果関係があるのかは定かではありません。だが、話しぶりから、仕事への強いストレスが月曜日に起こす引き金になったのでは、と感した。

休みが明けて、仕事を学校に行かなければならない憂うつな月曜日。古くから

日曜夜8時半からの「サザエさん」(フジテレビ系)の主観視を聞く。翌日からの仕事を思い、憂うつになるというが「サザエさん症候群」。裏を返せば月曜日の体調が、日曜夜の気分次第で変わるということにもならないか。そう考え、月曜日に「心と体」が悲鳴を上げるための、安らかな日曜日のテレビ番組の選び方を探した。



まず1月30日の日曜日をサンバルに、視聴率の番組データ調査(フジテレビ系・関東地区調べ)。

平日夜は、視聴率が20%を超えるレギュラー番組は多くて1、2番組ほどだといふ。だが、この日は4番組あった。「茶点」(日本テレビ系・午後5時半)、「サザエさん」(「義経」(NHK総合・午後8時)、「行列のできる法律相談所」(日本テレビ系・午後9時)。4番組はゲストや内容にかかわらず、平均20%前後の高い数字を維持している。これが日曜日テレビの「王道」だ。

日曜日の番組作りは、何が明確なターゲットはあるのだろうか。

「日曜は緊張感あつてテレビを見ながら会話が弾むような番組をお届けしたいと考えており、どの年代の方にも受け入れていただけるような番組を制作しています」(日本テレビ広報)

安らかな日曜日の夜が甘だ！ 「睡らないテレビの見方」

ドラマがリアルな男女のどろどろの感情劇を見ると、理想世界の嫌な出来事を感じ起し、憂うつになっちゃうのでは。

藤生さんが言う「リアスなニエース」は、「情報アイエー」(フジテレビ系・午後10時)、「リアルな男女のどろどろの感情劇」は、「Mの悲劇」(TBS系・午後9時)にあてはまりそうだ。

「テレビのからくり」(文藝新書)の著者スティア批評誌「GALAC」編集長の小田桐樹さんは、BSで放送されている「BS日本のうた」(NHK衛星第2・午後7時半)をすすめる。

「30日はやっていますけど、歌などを公開録音で放送する番組。ノスタルジーにも響けますし、なにも考えずにポイントと聴くのも楽なんです」

小田桐さんは最後に「きあつて「田舎」に泊まろう！」(テレビ東京系・午後7時)もよく見るといふ。

日曜日は、アメリカ向け情報バラエティーや海外ものが多い。例えば、B時台には「義経」を録音して「ジャンクSPORTS」(フジテレビ系)、「どうぶつ探検天外」(TBS系)、「大改造劇団のオアフター」(テレビ朝日系)、「ワールドクイズII」(日本テレビ系)が10〜12%の視聴率をマークしている。

実用情報・笑い飛ばし系、スポーツバラエティーなど各種入り混じっているが「リラックスできる番組」という観点で見ると、共連点が浮かび上がりそうだ。それは「選さ」――。

ひとつは観点が田舎だったり、海外だつたりするほうがいいという「空国」(朝河)の選さだ。もうひとつは何十年も前、大昔のこのほうがいいという「時国」の選さもある。

そうした観点から「選さ」に「近い」要素を持つ番組はバスしながら、選さ推薦のリラックスコースを選んでみた。

「日本テレビ広報」など、各局、ありまじりな答え。では、リラックスできる番組をどう選ばいいのか、1月30日の番組表を例に、専門家に聞いてみた。作家の藤生量さんは意外にも、「日曜洋画劇場」(テレビ朝日系・午後9時)の映画「タイ・ハート2」。「自分の生活をオパールアップさせたいものを見たいという選び方ですね。ストーリー展開が面白くて、こんな状況あるわけない、という突っ込みどころが満載の「土曜ワイド劇場」のような日級サスペンスが好きなんですが「タイ・ハート2」がそれに近い。著書売れやうだから、と笑って飛ばし、ストレス発散になる。藤生さんは続ける。「リアスなニエースはかき見ていると、仕事と休みの区持の切り替わがうまくいかなくなる場合もある。」

そのとき専門となりそうなのは午後9時台。「近い」番組が並んでいるのだ。「Mの悲劇」と「行列のできる法律相談所」は、会社や近所、女性関係のトラブルなど悩み事を感じ出せる。「Mの悲劇」は、雇われの重役用スゴットをやるだけでも憂うつになるという人もいる。一方「あるあるII」(フジテレビ系)は、実用的な健康情報で、不健康な今の自分を顧みて、気分が落ち込む危険がある。

そこで時台は浜川豊喜さんの和やかな笑顔を思い出しながら、「日曜洋画劇場」にエントリー。映画が合わなければ「選さ」という点を満たしている「世界ウルルン滞在記」(TBS系)などをサツピング。

眠れない場合、午後11時以降は、古き時代を感じさせるNHK「オパール」へ。それでも眠れない人には美しい「映画散歩」など「選さ」にかけてはNHKの座力を示す番組が続いている。白石雅行

「いいのではないですか。快眠ホルモンを出しますし、その程度の運動は熟睡にもつながります」(篠森健彦)

「夫婦や、一緒に暮らしているカップルのようにステイビーな関係であれば、脳卒中や心筋梗塞のリスクになさうとは少ないだろうと思います。ただ、そうでない場合は、特に男性では、週間に限らずしてリスクを高める可能性はあります」(篠山教授)

と肯定的な意見だつた。

月曜には重要な会議を開かない

脳卒中と心筋梗塞は午前中に起きることが多いと言われている。そうすると、月曜日の午前の週こし方も重要になる。

前出の岡田教授は、「早く起きて、少し音楽でも聴きながら、ゆつくり出勤する習慣をつける」とい時間には遅れるような形で月曜日の仕事のサイクルに響くのだろうか。

入った場合は、出勤途中や出勤した後に起こしやすいのです。家を出る前やバスに乗る前に、胸がちよつとおかしいとか、少し吐き気がするといった何か違和感を感じたら要注意です」

前出の篠森教授は、「朝、水を飲んで、水分を十分に補給するといいでしよう。あとは、月曜日の午前中はあまり重要な仕事は入れないことですね。だいたい月曜日の午前中というのは、ふつうでも能率が悪いんだから」

もちろん、根本の原因の一つである仕事のストレスを減らさない限り、「魔の月曜日」の危険にずっとさらされることになる。

職場のストレスについて研究している独立行政法人・産業医学総合研究所の大塚孝正研究員は、企業側のほうの対策として、「仕事に対する職能と社員に与えること」を挙げた。

「自分で自分の仕事のことを決められるコントロール感がある」と、仕事のストレスは減ると言われています。そして、何かあれば周りが助けてくれるという意識が持てるようにするといひたい」

企業のメンタルヘルスが専門の産業医科大学の水田輝彦教授(精神保健学)は、会社側に対し、週重労働に注意し、上司への相談もしやすいように、かもしないとうつもいらいかもしません」

と提案している。

本誌・福石後章

おかげさまで50年「健康で長生き」それがワガガの願いです

50年 since 1955

主丸ポロ®

送達株式会社 産科体質(ニ)ニ分抽出液配合

0120-39-0971

http://www.wakunaga.co.jp/

通丸製薬株式会社

本当にあった 自殺の危険日

「ブルーマンデー症候群」

月曜日に自殺する人が多いことが厚生労働省の統計で分かり、話題になっている。以前から言われていた「ブルーマンデー」という言葉を裏付けた形。あなたは月曜日の憂うつを、どう乗り切りますか？ 【小国綾子】

■土曜の1・5倍
月曜日の朝5時、熟睡できぬまま目覚める。会社では月曜恒例の会議があるので出社しなければならぬが、頭痛や動悸が始まって「行きたくても行けない」という思いに襲われる……。『月曜日の頭痛を止める本（ベストセラーズ）などの著書がある、初台関谷神経科クリニック（東京都渋谷区）の関谷透院長は、こうした症状を「ブルーマンデー症候群」と名付けて注意喚起してきた。その実態を裏付けたの

■ブルーマンデー症候群チェックリスト■ (関谷透・初台関谷神経科クリニック院長作成)

- ① 人が他人と比べて、月曜日の朝5時、熟睡できぬまま目覚める。
- ② 月曜日の朝5時、熟睡できぬまま目覚める。
- ③ 月曜日の朝5時、熟睡できぬまま目覚める。
- ④ 月曜日の朝5時、熟睡できぬまま目覚める。
- ⑤ 月曜日の朝5時、熟睡できぬまま目覚める。
- ※ 月曜日の朝5時、熟睡できぬまま目覚める。



男性は「早朝」女性は「正午」に注意

が、厚生労働省が自殺を初めて先月発表した自殺死亡統計（概況）だった。03年の自殺者3万2109人について、1日平均死亡数を曜日別に調べたところ、「月曜日」は男性が80・7人で女性は27・3人。最も少ない「土曜日」と比べると男性は1・5倍、女性で1・3倍に上った。

「仕事でストレスを感じるサラリーマンはもちろん、失業者や家に引きこもりがちの人にも、出勤や通学の人たちの存在が気になるのが月曜日。取り残された気分が強まってしまう」と関谷院長は指摘する。

■脳卒中も
時間別分析では、男性は午前5、6時台の早朝に多いのに対し、女性は正午前後に増える。これについて関谷院長は「男性の場合、布団の中であれこれ仕事を思い悩んだ末に自宅や通勤途中などで自殺を選ぶ。主婦などは子供や夫を送り出し、家事を終えた後の正午ごろ、孤独や空虚感を感じるのしょう」と分析する。

自殺だけではない。鳥取県健康対策協議会は85〜01年に脳卒中患者約1万7000人を分析し、月曜日の発症率が最も高いと結論づけた。また、40〜59歳と60歳以上の2群に分け、月曜日の発症率を日曜日と比較した。その結果、60歳以上は1・15倍、40〜59歳では1・38倍で、リタイア世代より現役世代の方が「月曜日」の影響を受けやすいことがはっきり分かった。月曜日は働き盛りにとって、まさに要注意日なのだ。

■休日を生かして
どんな人が月曜日にストレスを感じやすいのだろうか。「まじめでちょっとめんど、秩序を大事にする人。こういう人は管理職に抜てきされやすいので、さらにストレスをため込んでしまう」と関谷院長。

では、月曜日の危機をどう乗り切ればいいのか。「週末は寝て過ごすのではなく、適度な運動でストレスを発散すること。『月曜日は会社に行くだけでOK』とのんびり構えることも必要です。会議や朝礼を月曜日に行う会社や学校が多いが、ストレスを増やすだけだし、仕事の効率も悪い」

あなたの会社、月曜日に会議がありませんか？

Q

月曜日に 脳卒中が 多くなって 本当？

尾崎米厚
鳥取大学医学部助教授

鳥取県には、県、医師会、大学が共同で行っている、鳥取県健康対策協議会というものがあります。会の活動のひとつとして、鳥取県脳卒中登録事業において、一九八五年から県内で発症した脳卒中のデータを集めています。その一七年間分の情報を曜日別に分析した結果、月曜日の発症数が多いことが明らかになりました。脳卒中や心筋梗塞などの循環器疾患発症の季節変動、日内変動、曜日変動については、以前より数々の報告があります。脳卒中は冬に多いこと（鳥取県では冬も春も多い）が報告されていますが、どの曜日が多いかは、今まであまり報告されていませんでした。

この分析は、八五年二月一日から二〇〇一年二月三十一日まで脳卒中を発症し、病型が脳梗塞、脳出血、くも膜下出血と診断され、発症時の年齢が四〇歳以上の患者を対象に行ったものです。脳卒中はこの三つの病型ではほとんどが占められ、四〇歳未満の患者は極めて少ないことから、このような対象としたのです。

分析の対象とした患者数は一万二五三〇名でした。病型別の発症数は脳梗塞が八二二三名（六四・八％）、脳出血が三三九六名（二七・一％）、くも膜下出血は一〇一〇名（八・一％）。病型別の平均年齢は脳梗塞が六七・八歳、脳出血が六四・一歳、くも膜下出血が六一・三歳となっています。すべての脳卒中における若年発症者（四〇歳から五九歳）の曜日変動で、日曜日を基準にした各曜日の発症数比を見ると、月曜日が一・四〇倍、次いで水曜日の一・二二倍、火曜日の一・二〇倍となっています。高齢発症者（六〇歳以上）では、月曜日が一・一五倍、木曜日が一・〇九倍でした。

この月曜日の発症数の多さに影響をおよぼしているのが脳梗塞でした。若年者では月曜日は一・五三倍、高齢者では月曜日に一・一八倍の発症が認められたのです。高齢発症者の曜日変動では、くも膜下出血以外は、どの年齢においても、また病型別においても、月曜日の割合が高く、日曜日に低い傾向が認められています。

鳥取以外の地域からも、脳卒中や心筋梗塞の発症が月曜日に多いという報告があります。また、これらが一日の中では午前中に多いという報告も見られます。脳卒中と同じ循環器疾患である心筋梗塞でも同じような結果が出ていることは興味深い現象です。

月曜日の午前中は 危険がいっぱい

これらの現象はなぜ起こるのでしょうか。現時点ではまだ推測の域を出ませんが、いくつかの事実がわかっています。

一週間七日という曜日に基づく日常生活活動は人間社会がつくったものですから、このような曜日変動は、社会生活関連要因によってできたものではないかと考えられます。高齢者より若年者でその傾向が顕著であったこと、高齢者の曜日変動のピークが月曜日と木曜日の二方所あることなど、年齢により発症曜日の特徴に差があることも、若年者と高齢者の生活パターンの違いが影響している可能性を思わせます。

たとえば、脳卒中や心筋梗塞の原因のひとつといわれている血圧は月曜日や早朝に高いです。そのほか、週末の疲れが月曜日に出たり、週初めのストレスが月曜日にかかって発症の誘引になるとの説もあります。このように生体リズムと病気の発症には関係があることが明らかになってきました。月曜日の朝は自分の健康状態に十分注意し、おかしいと思えばすぐ受診することが大切だといえます。月曜日の午前中には大切な予定を入れないうかが無難です。

テレビ報道状況

- 1) テレビ朝日 「スーパーJチャンネル」
特集Jのこだわり - 魔の月曜日 多発する脳卒中 -
(2005年3月4日放映)

- 2) 広島ホームテレビ 「Home Jステーション Jクリニック」
- 月曜日は魔物が潜むブルーマンデー -
(2005年5月5日放映)

付表1 市郡別・届出年別新規登録者数

	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	合計
鳥取市	109	79	165	115	126	130	138	160	195	165	235	200	233	268	255	247	294	333	288	246	3981
米子市	46	59	169	118	183	171	173	123	91	84	64	95	102	120	130	156	112	225	196	163	2580
倉吉市	17	30	41	33	108	124	122	159	120	128	118	107	130	146	134	162	109	100	82	82	2052
境港市	9	32	48	20	55	35	36	23	38	10	31	41	6	39	84	56	90	94	87	59	893
岩美郡	32	29	82	43	36	36	58	44	47	37	64	50	63	69	68	60	70	82	68	44	1082
八頭郡	82	56	127	91	130	134	112	85	294	153	149	168	102	144	143	173	154	167	131	124	2719
気高郡	20	30	49	27	27	25	24	25	62	35	40	52	50	39	43	35	48	65	59	62	817
東伯郡	67	112	108	74	155	178	145	218	161	132	160	157	155	213	194	194	151	149	138	125	2986
西伯郡	45	42	103	53	61	111	97	87	69	47	47	65	57	82	85	83	49	108	85	91	1467
日野郡	54	61	59	75	62	77	72	73	59	50	53	59	62	90	57	48	47	78	89	93	1318
県内不明									1												1
県外	6	6	5	11	11	10	21	26	34	12	16	10	2				4				174
不明									1												1
合計	487	536	956	660	954	1031	998	1023	1172	853	977	1004	962	1210	1193	1214	1128	1401	1223	1089	20071

付表2 市郡別・届出年別新規登録者数(人口10万対)

	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
鳥取市	79.5	57.2	118.7	82.0	89.1	91.2	96.3	111.0	134.6	113.3	160.6	136.2	157.9	180.5	171.3	164.2	194.5	219.7	189.6	161.3
米子市	34.9	44.7	128.3	89.9	139.3	130.1	131.4	93.1	68.6	62.9	47.5	70.1	74.7	87.3	93.9	112.4	80.3	160.8	139.5	115.7
倉吉市	32.5	57.3	78.2	63.3	207.8	239.2	236.2	308.7	233.2	249.2	230.9	210.8	256.7	289.9	267.4	325.9	220.1	202.9	167.2	167.9
境港市	24.1	85.6	128.2	53.3	147.2	93.9	96.4	61.8	102.0	26.8	83.0	109.4	16.1	104.6	225.6	152.0	244.1	254.0	234.8	159.6
岩美郡	115.0	104.0	294.2	154.1	130.1	131.0	212.0	161.9	173.3	136.8	240.5	189.0	238.8	263.1	260.7	230.0	270.0	317.4	265.6	172.6
八頭郡	144.6	99.4	226.2	163.3	235.2	244.1	205.6	157.5	548.8	287.9	282.9	322.1	196.9	280.6	281.1	344.8	310.5	339.7	269.9	258.5
気高郡	82.5	123.7	202.1	111.9	112.3	104.3	100.7	105.2	261.3	148.4	170.1	222.3	214.4	168.8	187.5	154.2	212.4	289.3	264.8	281.3
東伯郡	94.9	159.2	153.7	105.5	221.6	255.5	208.6	314.9	233.5	191.7	233.6	229.1	226.4	312.4	285.5	289.7	226.1	224.1	209.3	190.8
西伯郡	84.7	78.8	192.8	99.6	114.8	209.5	184.0	165.6	131.9	89.8	90.6	125.4	110.1	159.2	165.7	162.4	96.0	213.0	168.5	181.6
日野郡	216.7	247.9	242.6	311.1	260.0	325.0	308.1	316.8	259.8	222.5	238.4	270.1	288.0	424.3	272.7	233.9	232.2	388.9	449.6	477.5

付表3 市郡別・届出年別診断票届出数(人口10万対)

	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
鳥取市	81.0	60.8	146.7	100.6	101.2	108.8	116.5	124.2	142.2	118.8	170.8	153.2	161.3	190.0	186.7	186.1	207.1	238.2	210.0	172.4
米子市	34.9	45.5	142.0	96.0	153.0	143.0	144.3	88.5	73.8	56.9	51.9	71.5	65.2	93.8	100.4	119.6	83.9	160.1	143.1	126.3
倉吉市	30.6	59.3	89.6	74.8	211.6	256.6	269.1	328.1	274.0	278.4	266.1	269.9	304.0	311.8	285.4	338.0	260.5	227.3	157.0	172.0
境港市	13.4	85.6	141.5	55.9	157.9	115.3	107.1	48.4	123.5	24.2	91.0	112.1	10.7	104.6	185.3	141.1	230.6	254.0	234.8	170.4
岩美郡	122.1	107.6	322.9	161.3	151.7	152.8	230.3	187.7	188.1	159.0	270.6	226.8	242.5	347.0	276.0	245.3	285.5	344.5	249.9	172.6
八頭郡	142.8	95.9	240.4	183.0	260.5	264.2	220.3	179.7	246.4	195.7	229.8	201.3	177.6	331.3	348.0	406.6	330.7	410.9	302.8	271.0
気高郡	82.5	131.9	226.8	128.5	137.2	129.3	125.8	113.6	236.0	144.1	153.1	188.1	214.4	190.4	218.1	176.3	225.7	320.4	282.7	281.3
東伯郡	86.4	167.7	173.7	119.8	247.4	291.4	247.5	355.4	282.8	216.4	256.9	288.9	280.5	337.3	317.9	310.6	263.5	237.7	201.7	196.9
西伯郡	41.4	56.3	187.2	80.8	105.4	203.9	195.3	152.3	107.1	63.1	52.1	104.2	79.2	159.2	148.1	152.7	101.9	183.4	186.4	177.6
日野郡	148.5	251.9	271.4	294.5	289.4	384.1	368.0	360.2	325.8	258.1	292.4	260.9	292.6	353.6	272.7	199.8	212.5	329.1	565.7	611.0

付表4 市町村別・届出年別新規登録者数

	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	合計
鳥取市	109	79	165	115	126	130	138	160	195	165	235	200	233	268	255	247	294	333	288	246	3981
米子市	46	59	169	118	183	171	173	123	91	84	64	95	102	120	130	156	112	225	196	163	2580
倉吉市	17	30	41	33	108	124	122	159	120	128	118	107	130	146	134	162	109	100	82	82	2052
境港市	9	32	48	20	55	35	36	23	38	10	31	41	6	39	84	56	90	94	87	59	893
国府町	16	17	22	13	22	16	23	9	11	5	25	20	26	12	20	19	27	37	21	12	373
岩美町	13	10	52	27	8	16	29	29	32	28	31	25	34	48	39	33	37	38	36	21	586
福部村	3	2	8	3	6	4	6	6	4	4	8	5	3	9	9	8	6	7	11	11	123
郡家町	22	11	17	10	12	11	13	12	54	20	33	25	15	15	17	23	24	29	21	17	401
船岡町	6	5	17	7	10	4	4	8	25	13	7	17	8	10	5	15	12	14	8	6	201
河原町	4	4	18	7	17	14	21	9	39	26	19	21	26	17	21	23	25	24	24	24	383
八東町	11	4	15	14	16	24	17	15	52	25	29	24	17	26	26	35	33	23	24	22	452
若桜町	2	2	17	5	9	11	23	18	33	16	24	24	11	14	17	22	13	22	21	13	317
用瀬町	8	3	19	3	8	7	8	9	13	8	16	18	7	10	11	15	11	11	7	9	201
佐治村	2	4	6	6	8	7	5	7	14	10	7	14	5	13	10	9	5	16	9	17	174
智頭町	27	23	18	39	50	56	21	7	64	35	14	25	13	39	36	31	31	28	17	16	590
気高町	11	16	25	17	12	10	8	17	29	17	17	22	23	13	19	15	17	27	28	20	363
鹿野町	4	9	8	3	2	7	3	1	15	7	8	10	10	6	6	5	7	11	8	18	148
青谷町	5	5	16	7	13	8	13	7	18	11	15	20	17	20	18	15	24	27	23	24	306
羽合町	3	6	8	1	11	15	18	18	15	16	17	23	19	19	22	17	15	17	16	11	287
泊村	2	6	4	2	11	10	8	14	7	7	11	13	10	10	7	7	6	10	5	5	155
東郷町	1	10	6	11	12	24	18	21	13	20	28	16	10	27	18	25	20	17	7	14	318
三朝町	7	14	8	2	9	17	9	21	16	23	10	18	24	24	22	25	16	22	11	15	313
関金町	2	2		2	12	14	13	13	17	8	23	20	17	22	20	17	19	11	12	7	251
北条町	1	4	8	2	10	18	13	12	13	7	20	14	18	21	28	18	18	16	22	12	275
大栄町	13	10	11	9	24	23	11	27	20	11	18	22	19	38	32	32	19	17	18	22	396
東伯町	24	37	39	34	43	34	30	49	30	13	19	15	16	33	23	31	18	18	30	16	552
赤碓町	14	23	24	11	23	23	25	43	30	27	14	16	22	19	22	22	20	21	17	23	439
西伯町	3	1	40	9	20	29	14	23	8	11	17	7	7	15	11	21	3	8	8	10	258
会見町	2	4	9	2	3	6	11	3	1	2		7	2	4	14	4	6	7	5	4	96
岸本町	5	4	13	15	7	12	8	14	8	4	3	6	6	17	14	15	14	21	12	18	216
日吉津村	4	4	2	3	2	6	5	6	4	2	1	3	4	5	6	4	5	10	9	7	92
淀江町	11	5	11	4	9	25	10	13	7	16	14	9	14	15	10	12	10	21	16	21	253
大山町	10	6	10	8	7	11	8	9	5	6	4	7	7	10	11	12	4	16	13	15	179
名和町	5	10	7	13	15	15	16	11	16	2	9	9	6	13	12	11	5	15	12	10	212
中山町	5	8	11	8	9	16	10	17	5	7	5	7	11	3	7	4	2	10	10	6	161
日南町	19	30	31	32	31	27	18	25	23	22	15	27	28	25	16	14	9	30	39	29	490
日野町	4	15	16	28	20	22	25	27	17	15	20	5	17	19	17	22	20	19	16	36	380
江府町	8	10	5	12	5	13	21	14	16	8	13	17	8	17	14	4	8	18	23	13	247
溝口町	23	6	7	3	6	15	8	7	3	5	5	10	9	29	10	8	10	11	11	15	201
県内不明									1												1
県内合計	481	530	951	649	943	1021	977	997	1137	841	961	994	960	1210	1193	1214	1124	1401	1223	1089	19896
県外	6	6	5	11	11	10	21	26	34	12	16	10	2				4				174
不明									1												1
合計	487	536	956	660	954	1031	998	1023	1172	853	977	1004	962	1210	1193	1214	1128	1401	1223	1089	20071

付表5 市町村別・届出年別診断票届出数

	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	合計
鳥取市	111	84	204	141	143	155	167	179	206	173	250	225	238	282	278	280	313	361	319	263	4372
米子市	46	60	187	126	201	188	190	117	98	76	70	97	89	129	139	166	117	224	201	178	2699
倉吉市	16	31	47	39	110	133	139	169	141	143	136	137	154	157	143	168	129	112	77	84	2265
境港市	5	32	53	21	59	43	40	18	46	9	34	42	4	39	69	52	85	94	87	63	895
国府町	19	19	25	13	26	22	28	13	11	6	30	24	27	19	20	21	31	39	22	13	428
岩美町	12	9	56	29	9	16	29	30	35	33	33	30	34	58	43	36	36	42	30	20	620
福部村	3	2	9	3	7	4	6	8	5	4	9	6	3	14	9	7	7	8	12	11	137
郡家町	22	9	18	13	16	12	14	13	16	9	28	14	15	19	21	27	24	38	23	22	373
船岡町	7	6	19	8	10	5	7	7	12	19	8	10	8	12	10	20	12	14	9	7	210
河原町	4	4	23	9	11	8	15	11	11	13	15	14	20	20	23	27	28	29	25	23	333
八束町	11	4	17	13	20	23	15	17	18	20	28	31	16	27	27	34	28	31	28	26	434
若桜町	2	1	19	6	9	11	28	24	23	14	19	10	9	18	22	25	20	28	24	16	328
用瀬町	8	4	13	3	9	11	8	10	6	2	11	8	6	11	16	19	11	14	10	6	186
佐治村	2	3	3	6	9	8	5	7	9	3	6	10	3	18	14	10	7	17	11	18	169
智頭町	25	23	23	44	60	67	28	8	37	24	6	8	15	45	44	42	34	31	17	12	593
気高町	12	16	29	20	17	14	13	19	28	19	16	18	23	15	18	20	19	32	29	18	395
鹿野町	4	10	8	4	2	8	3	2	12	5	8	7	11	8	6	6	7	11	8	19	149
青谷町	4	6	18	7	14	9	14	6	16	10	12	19	16	21	26	14	25	29	26	25	317
羽合町	2	6	9	2	11	15	21	24	16	17	19	27	24	20	29	21	18	16	14	12	323
泊村	2	5	7	2	11	11	7	16	8	8	12	16	14	10	8	6	5	12	6	5	171
東郷町	1	11	8	11	15	28	21	23	18	26	30	22	17	27	26	29	23	17	11	15	379
三朝町	2	13	9	2	10	17	9	25	18	26	10	22	26	27	24	27	20	23	11	15	336
関金町	1	1		2	13	15	15	16	18	7	23	24	22	26	20	17	21	11	12	8	272
北条町	1	5	8	1	10	20	15	11	20	8	24	16	21	23	28	18	21	20	18	13	301
大栄町	13	12	11	11	27	29	16	30	22	16	23	27	23	39	34	35	22	20	16	23	449
東伯町	24	39	46	40	49	43	39	53	39	13	20	21	20	39	25	30	21	18	28	16	623
赤碕町	15	26	24	13	27	25	29	48	36	28	15	23	25	19	22	25	25	21	17	22	485
西伯町	3	1	42		9	21	31	15	25	9	11	17	8	16	11	18	3	7	8	10	265
会見町	1	2	10	2	3	6	13	5	1	2		6	2	7	14	3	6	6	7	4	100
岸本町	5	4	13	17	8	13	9	15	4	3	2	4	4	18	19	17	18	18	14	20	225
日吉津村		1	2	3	2	6	4	4	4	2	1	4	6	5	5	4	5	8	12	6	84
淀江町	2	5	9	4	8	22	13	10	2	9	6	5	4	15	8	11	10	17	16	21	197
大山町	9	4	11	7	8	16	10	9	5	5	3	6	6	7	8	9	3	12	14	15	167
名和町		7	5	6	10	13	12	7	9	2	3	10	4	11	7	12	5	16	13	9	161
中山町	2	6	8	4	8	11	11	15	6	1	1	2	7	3	4	4	2	9	10	4	118
日南町	15	30	34	36	35	34	23	26	33	25	17	30	32	24	20	17	12	31	43	35	552
日野町	4	18	18	21	22	26	29	32	19	22	30	6	19	18	11	8	15	13	27	45	403
江府町	8	12	6	13	7	16	23	18	18	7	14	16	10	16	14	5	7	11	29	17	267
溝口町	10	2	8	1	5	15	11	7	4	4	4	5	2	17	12	11	9	11	13	22	173
県外	6	6	5	11	13	10	22	27	34	14	18	13	2				3				184
不明									1												1
合計	439	539	1064	714	1043	1149	1132	1094	1090	836	1005	1032	989	1299	1277	1301	1207	1471	1297	1161	21139

付表6 市町村別・届出年別退院票届出数

	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	合計
鳥取市	75	132	131	234	169	202	240	245	245	273	324	258	195	2723
米子市	22	12	24	10	43	34	79	84	94	80	168	156	135	941
倉吉市	61	73	90	82	78	81	122	120	149	121	106	75	89	1247
境港市	3	2	4	2	9	2	16	45	40	78	80	64	60	405
国府町	5	7	6	22	18	14	17	19	16	23	32	22	5	206
岩美町	12	12	8	11	20	12	36	47	32	26	43	25	17	301
福部村	4	5	3	8	3	3	9	7	9	5	8	11	9	84
郡家町	7	11	8	22	11	6	16	19	25	22	31	16	16	210
船岡町	2	8	8	7	10	10	9	9	19	12	12	6	5	117
河原町	2	7	5	13	8	7	12	19	24	23	24	16	18	178
八東町	6	11	4	10	16	8	17	17	20	28	24	15	23	199
若桜町	5	7	3	15	12	9	13	17	25	15	27	20	10	178
用瀬町	3	2		8	8	4	5	16	16	13	13	8	6	102
佐治村		6	2	7	6	4	13	13	6	8	17	7	11	100
智頭町	3	6		4	4	6	29	42	37	29	28	13	13	214
気高町	6	17	17	21	22	22	13	17	16	15	26	32	12	236
鹿野町		9	5	6	9	8	7	4	7	6	8	7	19	95
青谷町	6	16	7	17	19	16	17	15	15	16	32	24	24	224
羽合町	6	9	9	16	14	20	14	18	21	18	17	13	12	187
泊村	6	8	8	7	6	10	5	9	4	7	10	7	2	89
東郷町	2	9	13	16	11	8	27	24	22	21	14	11	15	193
三朝町	7	10	15	11	12	11	17	27	24	19	23	10	14	200
関金町	6	11	7	11	15	16	27	19	16	17	15	10	8	178
北条町	4	14	7	10	10	8	17	22	21	17	22	17	12	181
大栄町	10	16	8	22	15	13	22	19	29	27	18	17	20	236
東伯町	22	14	13	12	8	11	24	23	27	21	20	25	19	239
赤碕町	15	11	22	7	9	11	14	16	25	23	18	14	25	210
西伯町			2	2	10	3	9	13	14	4	9	6	6	78
会見町					5	2	4	11	4	4	10	6	5	51
岸本町	2	1	1		3	2	11	8	16	15	18	11	16	104
日吉津村	2		2		2	2	4	4	1	3	7	10	4	41
淀江町	2			2	6	2	8	4	7	4	21	12	14	82
大山町	1		2	1	2	2	7	4	6	4	14	12	8	63
名和町		2			7		8	10	6	5	10	12	4	64
中山町	6	1		1	1	3	3	2	5	2	7	7	3	41
日南町	8	15	15	7	18	21	15	16	11	10	27	42	30	235
日野町	16	10	10	16	3	10	13	8	4	15	7	27	30	169
江府町	5	11	6	10	10	8	11	10	2	7	8	25	13	126
溝口町			1	2	2	2	10	10	6	8	10	11	17	79
県外	4	10	3	6	11					2				36
合計	346	495	469	658	645	613	940	1032	1066	1046	1308	1080	944	10642

付表7 市町村別・届出年別経過報告票届出数

	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	合計
鳥取市	121	212	211	164	277	147	30	1162
米子市	20	18						38
倉吉市	103	129	115	48	23	39	9	466
境港市	10							10
国府町	6	11				1		18
岩美町	30	47	76	86	138	107	27	511
福部村								
郡家町	20	33	63	74	48	86	48	372
船岡町	4	4						8
河原町	15	40	35	13		27		130
八東町	14	11	1			12		38
若桜町	1							1
用瀬町	7	20	17	4	22	9	21	100
佐治村						1		1
智頭町								
気高町								
鹿野町		6						6
青谷町								
羽合町	2	6	14	4	11	3		40
泊村								
東郷町	2							2
三朝町								
関金町								
北条町								
大栄町	19	1	4	1	7	9		41
東伯町		4	4	4	4		4	20
赤碕町	1							1
西伯町								
会見町								
岸本町								
日吉津村								
淀江町					2			2
大山町	6	2	1		5	2		16
名和町								
中山町								
日南町								
日野町	3							3
江府町	3	4			1		2	10
溝口町								
合計	387	548	541	398	538	443	141	2996

付表8 医療機関別・受付年別診断票届出数

	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	合計
鳥取県立厚生病院	2	30	70	36	38	61	48	44	27	41	80	93	88	63	32	46	60	45	28	12	944
清水病院	13	6	8	9			4	3	8												51
北岡病院					9						4										13
野島病院					144	173	208	271	286	248	232	229	240	274	299	297	243	219	175	198	3736
倉吉病院						5	8	7	2	1		8			5	2					38
垣田病院			8				13	15	34												70
信生病院					19	18		14	5	6	2	3	2	1							70
谷口病院												1									1
藤井政雄記念病院																				2	2
岡大医学部付属三朝分院									1						1						3
中部医師会立三朝温泉病院		27								1								3		1	31
足立産婦人科医院							1														1
大石小児科医院						1															1
大津医院		2		1																	3
音田内科			3	1																	4
川本内科医院	1		2	1	1		1					1		1				1			9
豊田医院		2				1															3
西田内科											3										5
新田内科クリニック																7					7
西本医院																				1	1
野田外科医院			1		1																2
まつだ小児科医院(倉吉市)		2																			6
松田医院	4	2	2	1		1	1														7
萬治医院				3																	3
宮石クリニック												12	10	7	10	17	5	2			63
山本内科医院(倉吉市)														1							2
足立医院(羽合町)						2	1	2											1		5
安達医院										2											2
土井医院	1	5	5	9	3	6			2	3	4	2	1		1	1	1		1		45
竹田診療所	1																				1
安梅医院										1	2										4
関金町国民健康保健診療	1																				1
伊藤医院		1																			1
宮川医院														36	17	6					59
入江医院						2						1									3
岡田医院(東伯町)								1													1
中野医院		2				1															3
中本内科医院	2		3		4	5	3	2	1	2	4	1	5	1		1					34
森本外科脳神経外科医院	55	74	68	66	68	64	35	71	34					11							546
町立赤崎診療所		5											4								9
桐谷医院				1																	1
林原医院						1															1
倉吉市不明										1						1					2
東伯町不明									1												1
鳥大 第一内科			2	1	1	2	2			1					1				3	2	15
鳥大 第二内科		2																			2
鳥大 総合内科						2															2
鳥大 脳神経内科				8		2	28	6	8	9	4										65
鳥大 脳神経外科							66											34	11		111
鳥大 法医学	2									1		1									4
鳥大 その他			1							1											2
国立米子病院												1		1	1					5	8
山陰労災病院		45	120	28	107	151	137	124	107	57	45	78	66	100	105	55	14	169	200	170	1878
博愛病院	9		64	63	81	47	27					4	3	17	5		10	22		8	360
高島病院	13	10	17	19	18	24	5	9						24	23	40	26	33	17		278
広江病院								1													1
米子病院			3			1															4
米子中海病院																			6	1	7
皆生温泉病院								11								80	60	50	55	48	304
新田外科胃腸科医院			4	4	10	15	7	8	5	8	5	20	16	19	7	10	10	8	7	9	172
済生会境港総合病院	4	33	37	20	50	26	21	5	40	2	36	44	3	36	68	44	83	85	84	50	771
元町病院															1						1
西伯病院	4		47		8	16	28	12	21	7	8	22	8	12	16	12					221
大山リハビリテーション病院														22	35	60	47	40	29	56	289
日南病院	7	23	26	29	29	27	14	19	26	22	13	27	27	19	18	15	9	25	35	23	433
日野病院	10	24	13	31	22	26	36	41	31	24	45	22	27	32	10	20	8	44	57	523	
溝口中央病院			2			9	5	4						19	27	10	6		1	7	90

付表8 医療機関別・受付年別診断票届出数

	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	合計
安達医院(米子)			1			2	1	2	1			1			2		1				11
芦立外科脳神経外科医院		1		1		1	1	1		1		1	2								9
井上内科医院						8															8
伊藤内科胃腸科医院				2																	2
石川内科胃腸科医院	1																				1
岩本医院												1	2								3
越智内科医院	2																				2
岡崎内科医院	1											1	1								3
川田内科医院							1	3		1											5
北尾医院						2															2
木村内科医院	2	2	2	1	1		1			1					1						11
車尾診療所	6	2	4	1	1	5	1	4	3	3	1	2	5	2	3	1	1			5	49
クリ内科胃腸科クリニック														1							1
小酒外科医院								3	3	2	7	5	3	1		1			1	1	27
済生会米子診療所					1																1
坂口内科							1		2												3
下山医院			1	5	9	4	4	8	5	6	3	3	4	4	1						57
須山医院									2	1	6		6								15
田中医院(米子市)			1	1												1					3
竹田内科医院(昭和町)	2	1	4	6	1		2	2	2	1	1		1								23
中井医院												1									1
野坂医院						1		1	3	4	5										14
藤井外科医院	1																				1
船田医院	6	1	7	5	9	2	2	1	2	1											36
宝意内科医院			1	4																	5
本田医院	4				5	4	6	4	1	2	2	2	1	6	4	6	3		3	5	58
本田内科医院						1															1
松浦医院	1																				1
松田内科クリニック											2	5	8		4	1	1				21
松本医院(米子市)				1								1			1		1				3
三好内科医院						1									1						1
山口外科医院	3	11	20	10	22	14	14	9	1	15	3	4	5		1		4	2	1	4	143
山田内科医院		4																			4
山柘内科医院			2	3		1	1					2									10
弓場医院						1								1		1					2
渡辺内科医院											5	1	1								8
相原医院				1																	1
池淵医院	3	1	7		1																12
倉元内科医院			1	2	3	2	1	1	1	1				1							13
高田内科医院			1																		1
南家医院				2		4	7	3		2											18
都田医院(境港市)										1											1
山根医院														2							2
仲村医院	1	1	2	8																	12
涌谷医院						3		4	3												10
足立医院(淀江町)						3															3
大山寺診療所			1																		1
佐古診療所	5	1	1	2		5	2														16
大山診療所	2				2				2												6
小谷医院		6																			6
名和町国保診療所									1												1
佐々木医院(中山町)			1											1							2
板倉医院				1																	1
入沢医院	7	2	2	4	1	5	2	2	2	1											28
日南町石見診療所			3																		3
松田医院(日野町)		10	4	1	4	5	7	2	4	3	1				1						42
生田医院	4																				4
佐伯医院		2	1	2		2	1	1													9
武田医院	6		2	1	3		1			2	1	2	2	1	1						22
飛田医院	3								1						2						6
キマチ外科整形外科医院																1					1
江尾診療所																					4
米子市不明								2			1						1	2	1		4
境港市不明									1												1
西伯町不明													1								1
岡山県														1							1
島根県												1									1
合計	439	539	1064	714	1043	1149	1132	1094	1090	836	1005	1032	989	1299	1277	1301	1207	1471	1297	1161	21139

平成16年 脳卒中登録事業 事業実績報告書

平成17年 3月31日発行

編集 能勢 隆之（鳥取大学医学部社会医学講座健康政策医学分野）

尾崎 米厚（鳥取大学医学部社会医学講座環境予防医学分野）

発行 鳥取県健康対策協議会

鳥取県脳卒中登録対策専門委員会

印刷 （株）米子総合印刷センター